

2023年度 がん登録塾
部位別セミナー

第1回

2コマ

部位別セミナー

消化管のがん 胃がん



JA長野厚生連 佐久総合病院
総合医療情報センター

西本 寛



胃の解剖・生理

消化管の解剖

● 食道(頸部→胸部→腹部) → 食道胃接合部

● 胃(噴門→胃底部→胃体部→幽門前庭部→幽門)

● 十二指腸(上部【球部】→下行部→水平脚→上行部)

→ Treitz^{トライツ}靱帯

↑ 上部消化管
↓ 下部消化管

● 小腸* (空腸→回腸) → 回盲部 * 狭義の小腸

● 結腸(盲腸→上行結腸→横行結腸→下行結腸)

● 直腸(直腸S状部→上部→下部)

● 肛門管

青字は腹腔内

腹腔内臓器の解剖

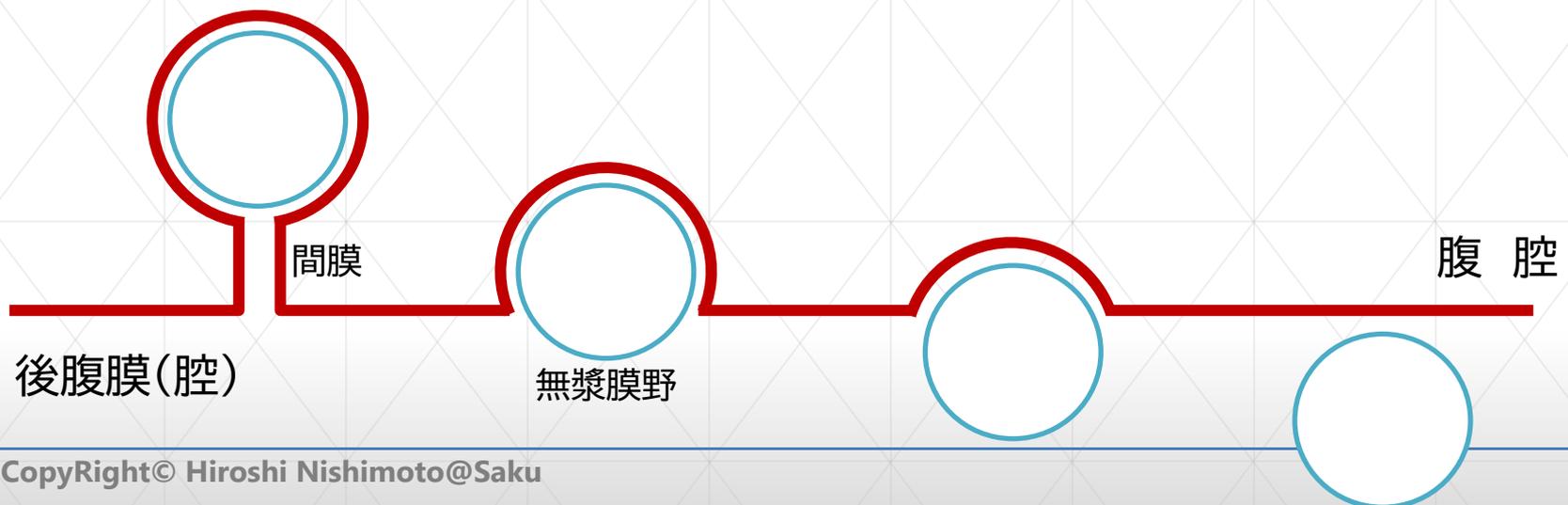
- 腹腔は、腹膜で被われた袋状の空間(腔)
正確には腹膜腔と呼ぶべき

後腹膜腔は「腔」と呼ばれるが、袋状ではない

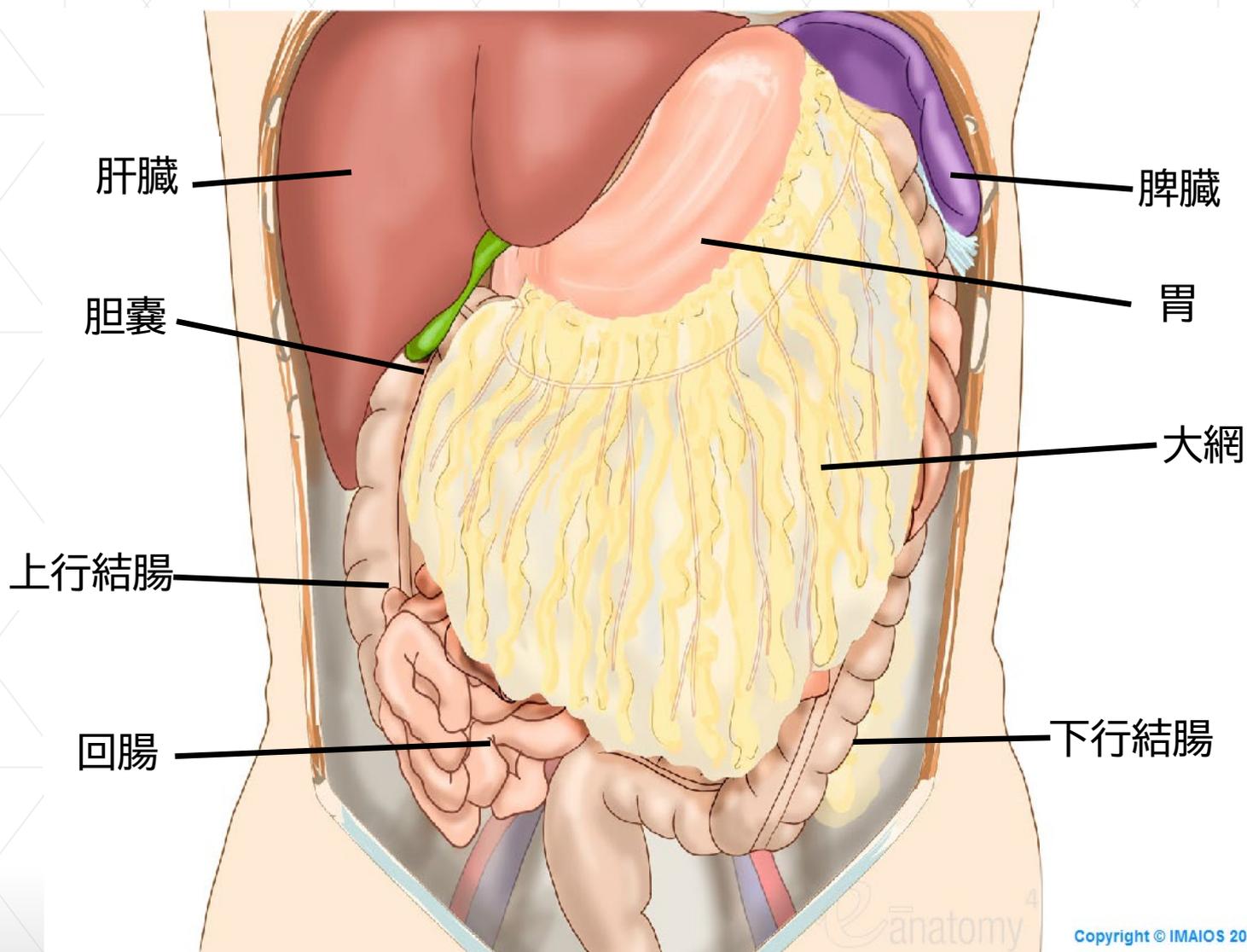
- 消化管・肝臓・脾臓・子宮/卵巣・膀胱は
腹膜(漿膜)で 全部/一部が被われている
- 腹膜の背側は、
結合組織/脂肪組織などからなる後腹膜(腔)
腎臓・副腎、膵臓、十二指腸、下部直腸が存在
その他にも、大動脈・下大静脈他の血管が通過

腹膜と内臓の関係

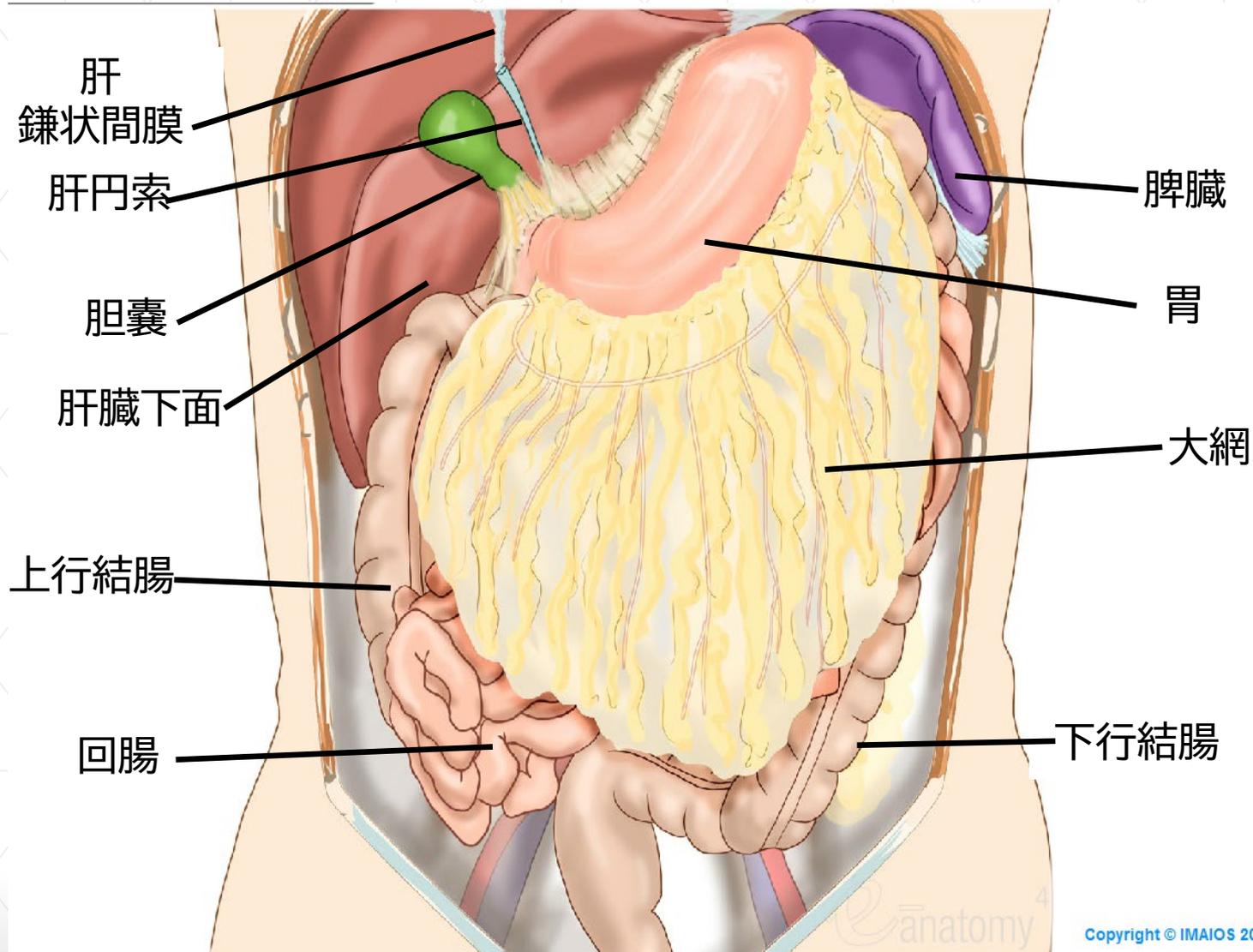
- 全体が腹膜(漿膜)に包まれる(間膜形成)
胃・空腸・回腸・横行結腸・S状結腸・虫垂・卵巣
- 大部分が腹膜(漿膜)に包まれる(一部に無漿膜野)
肝臓・胆嚢・盲腸・上行結腸・下行結腸
- 半分程度が腹膜(漿膜)に包まれる
子宮・膀胱
- 全く腹膜(漿膜)に包まらない
腎臓/副腎・十二指腸・膵臓



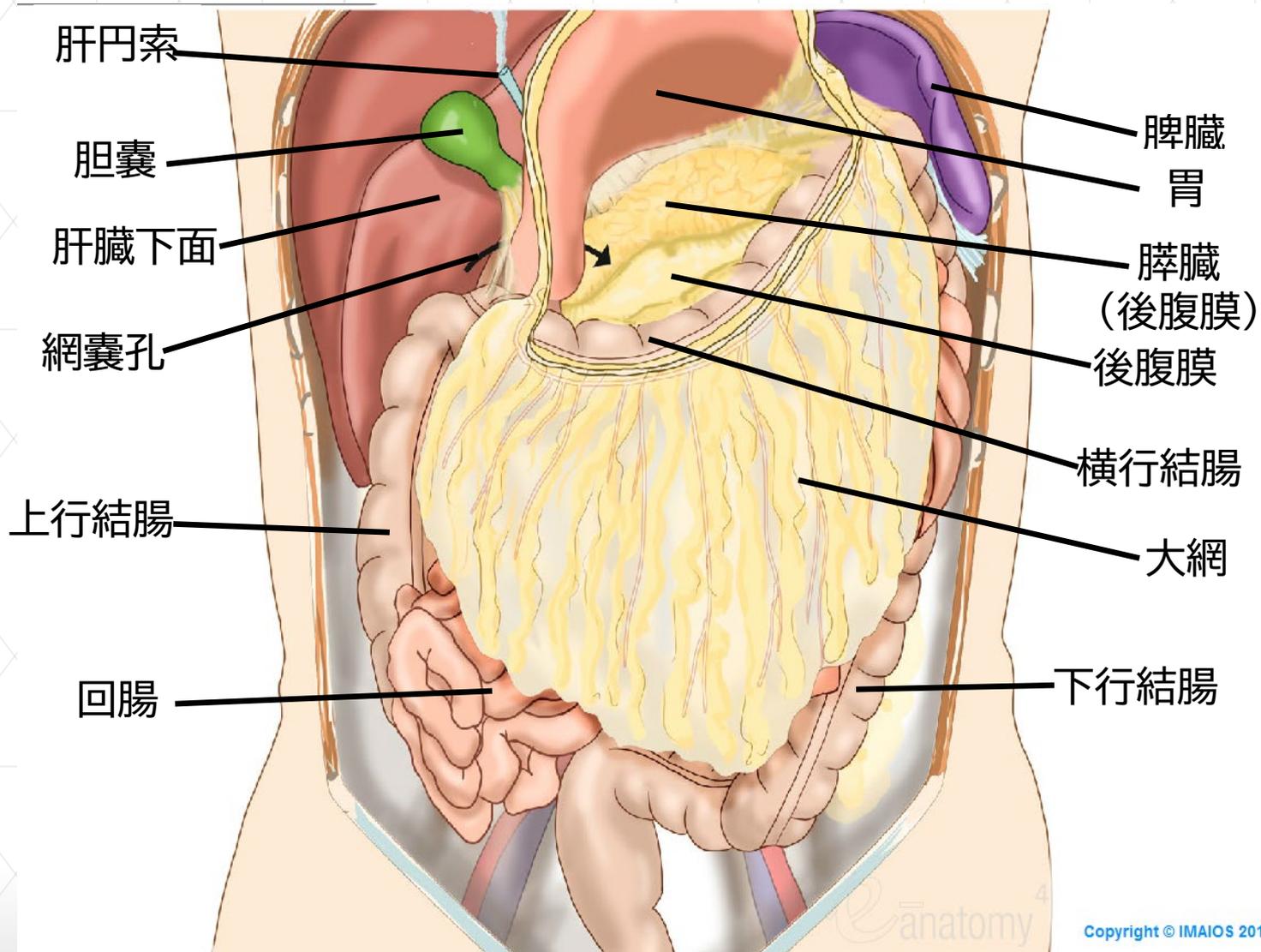
腹腔內臟器 #1



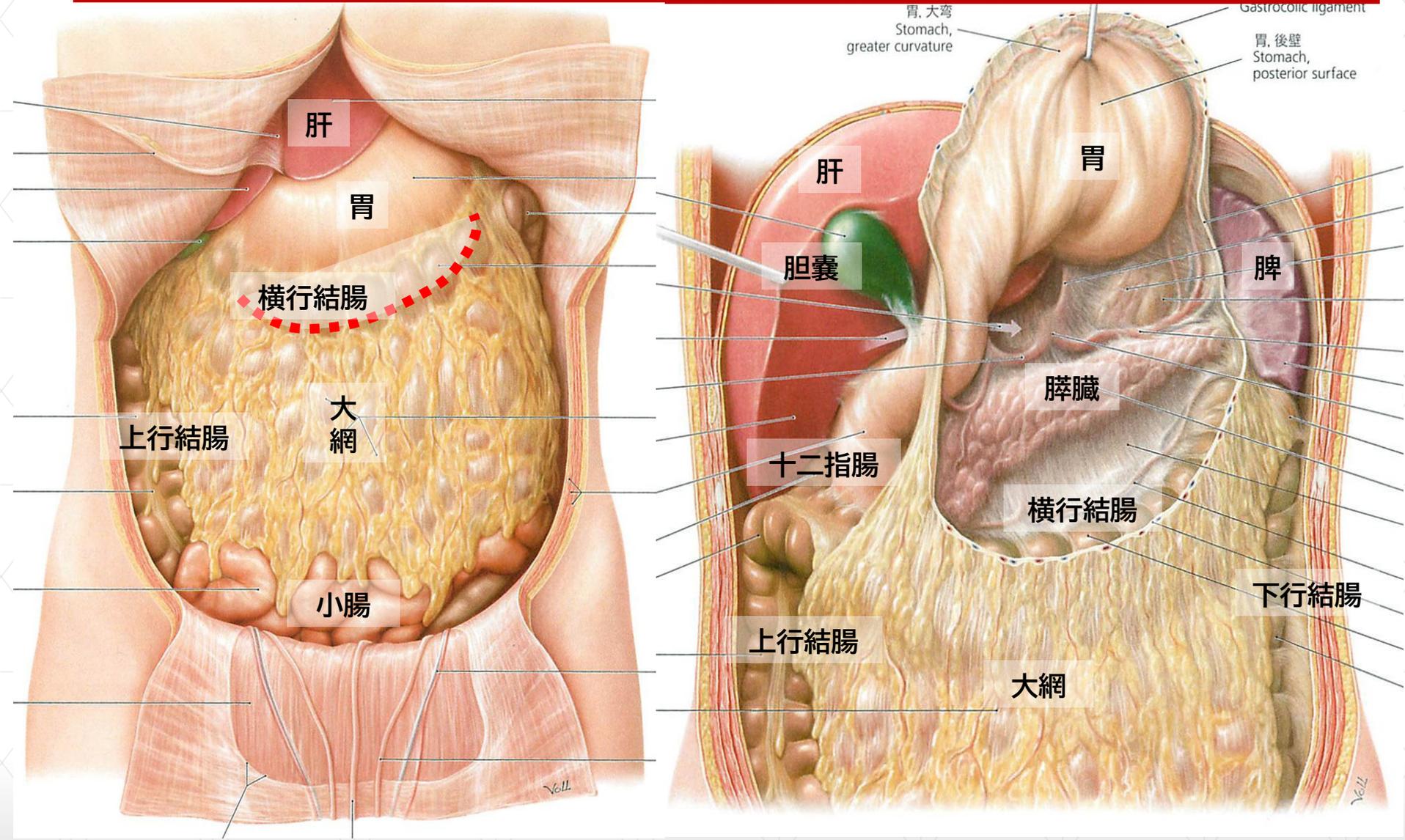
腹腔內臟器 #2



腹腔內臟器 #3



胃の前部と背部



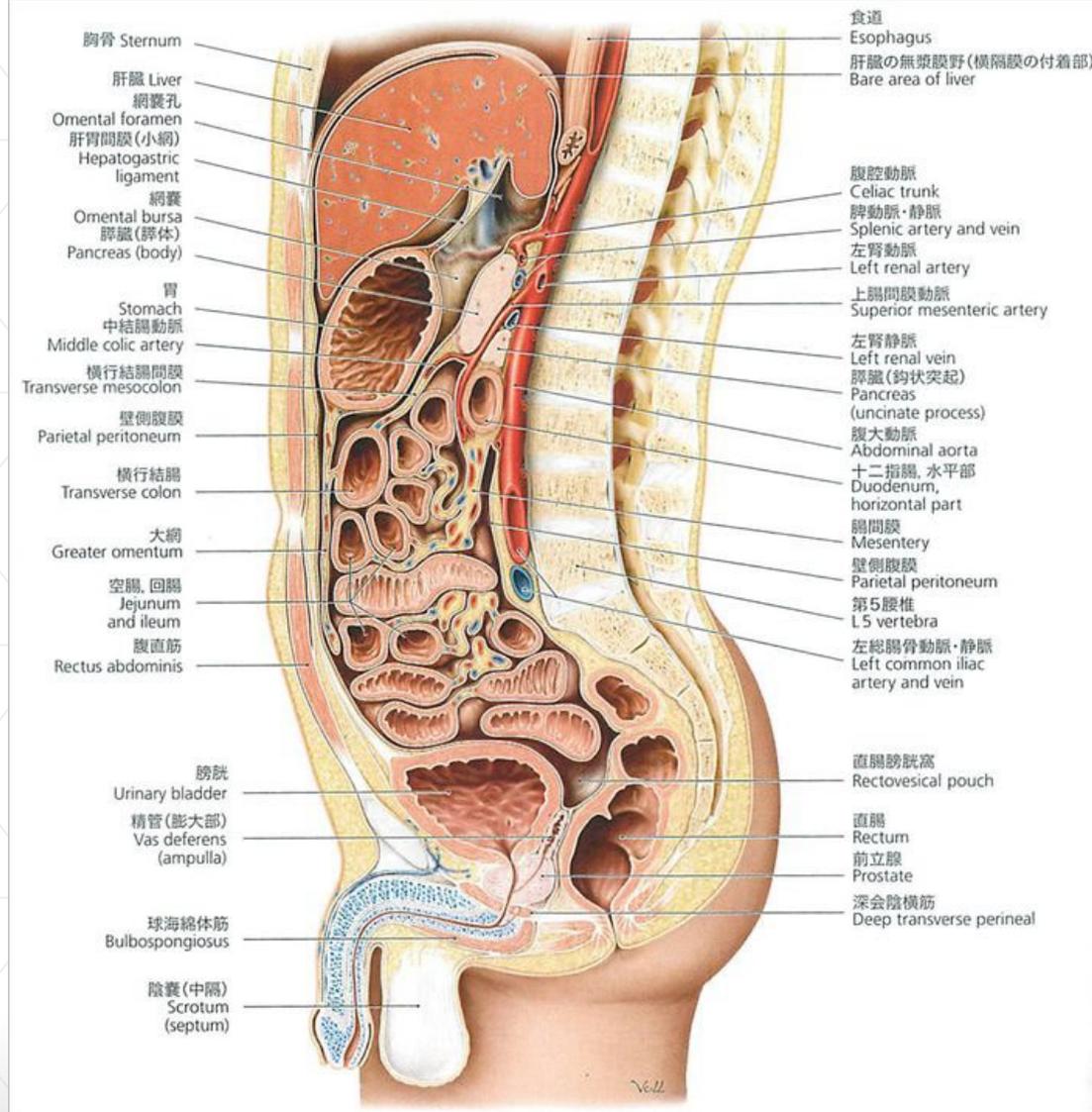
腹部の側面像

● 腹腔

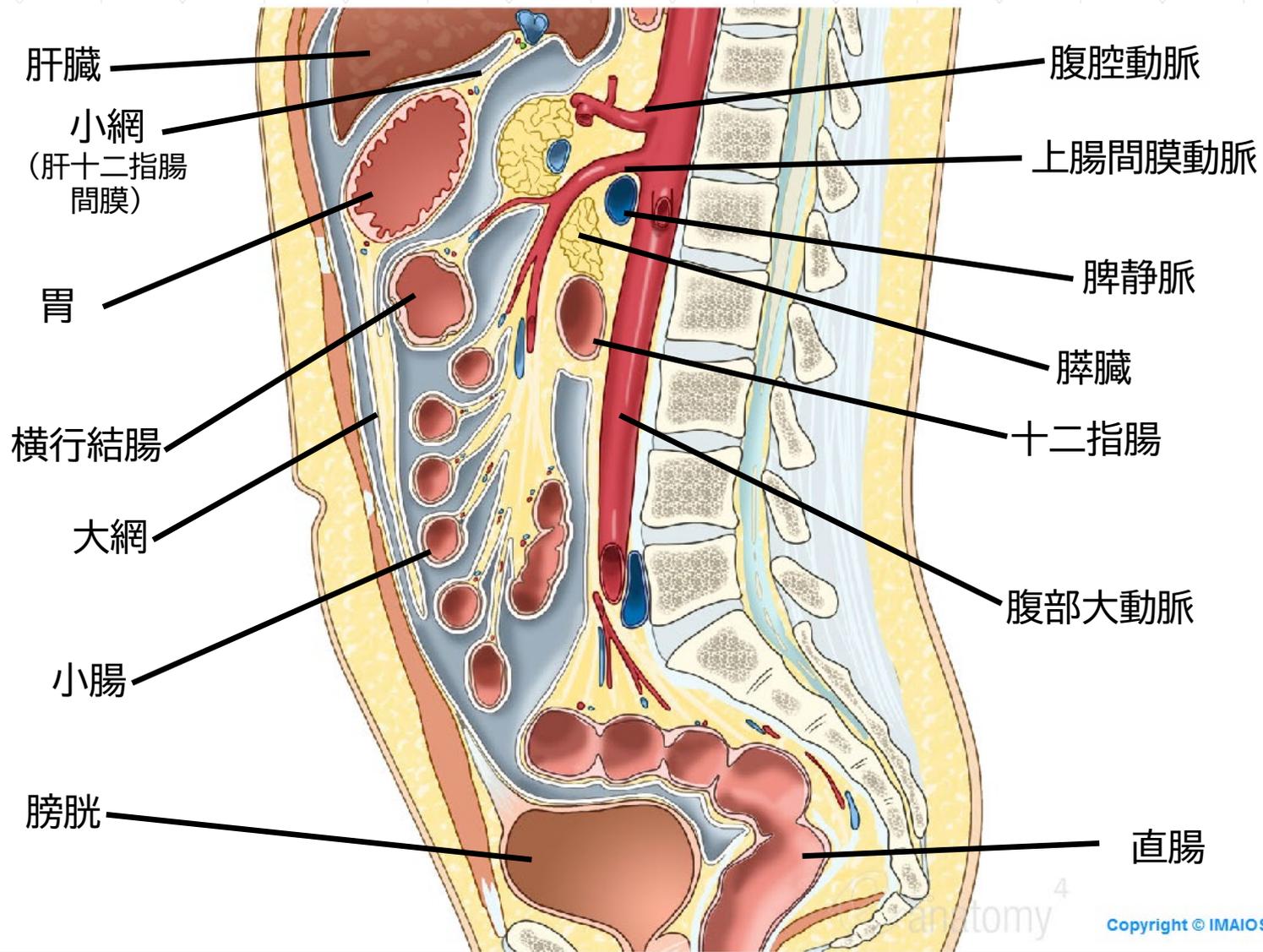
- 肝臓/胆嚢・胃
- ・空腸・回腸・盲腸
- ・上行/横行/下行
- ・S状結腸
- ・上部直腸

● 後腹膜腔

- 十二指腸・膵臓
- ・下部直腸・腎臓
- ・副腎・腹部大動脈
- ・下大静脈・脊椎



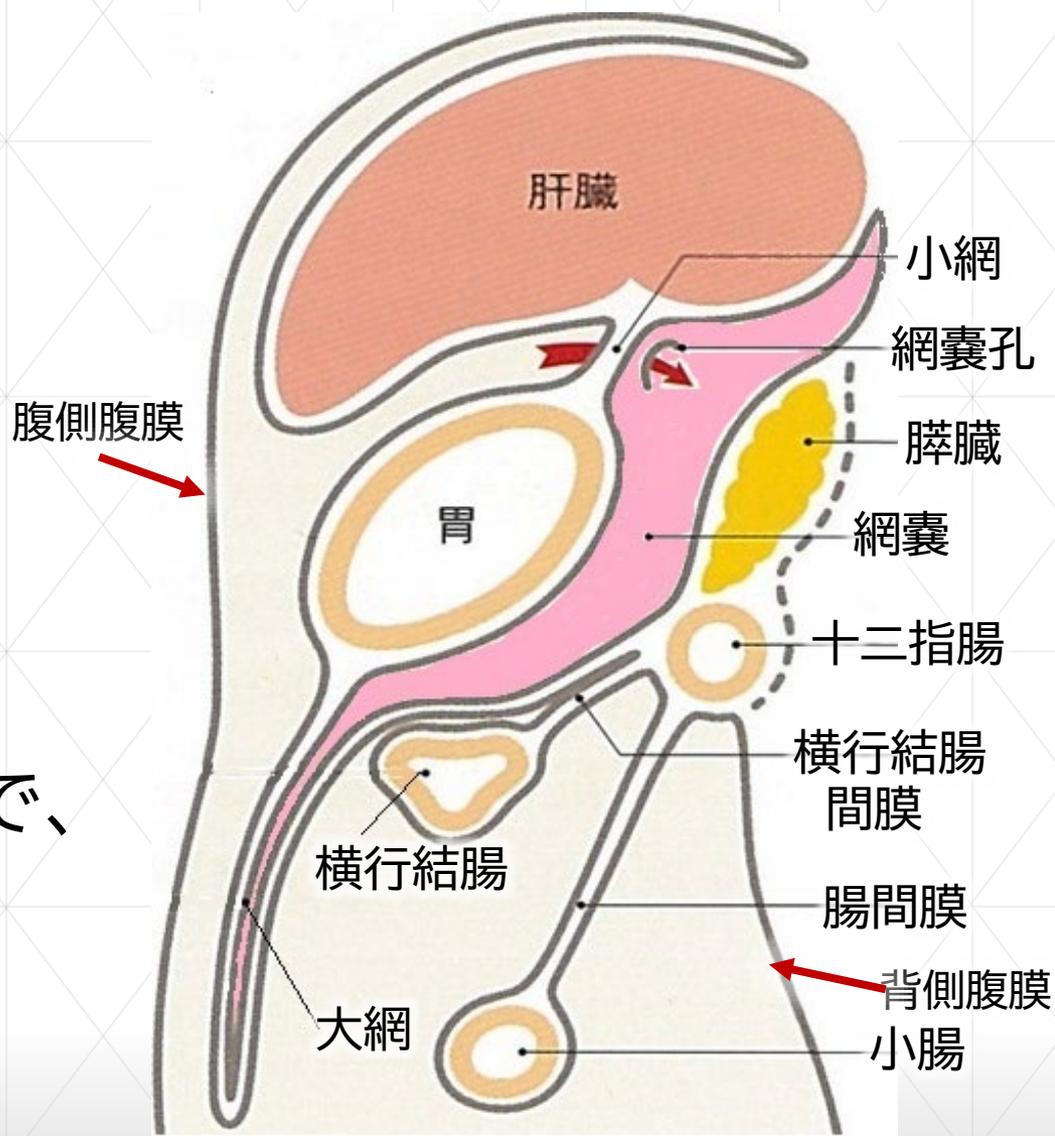
腹部の側面像



腹膜と漿膜の関係

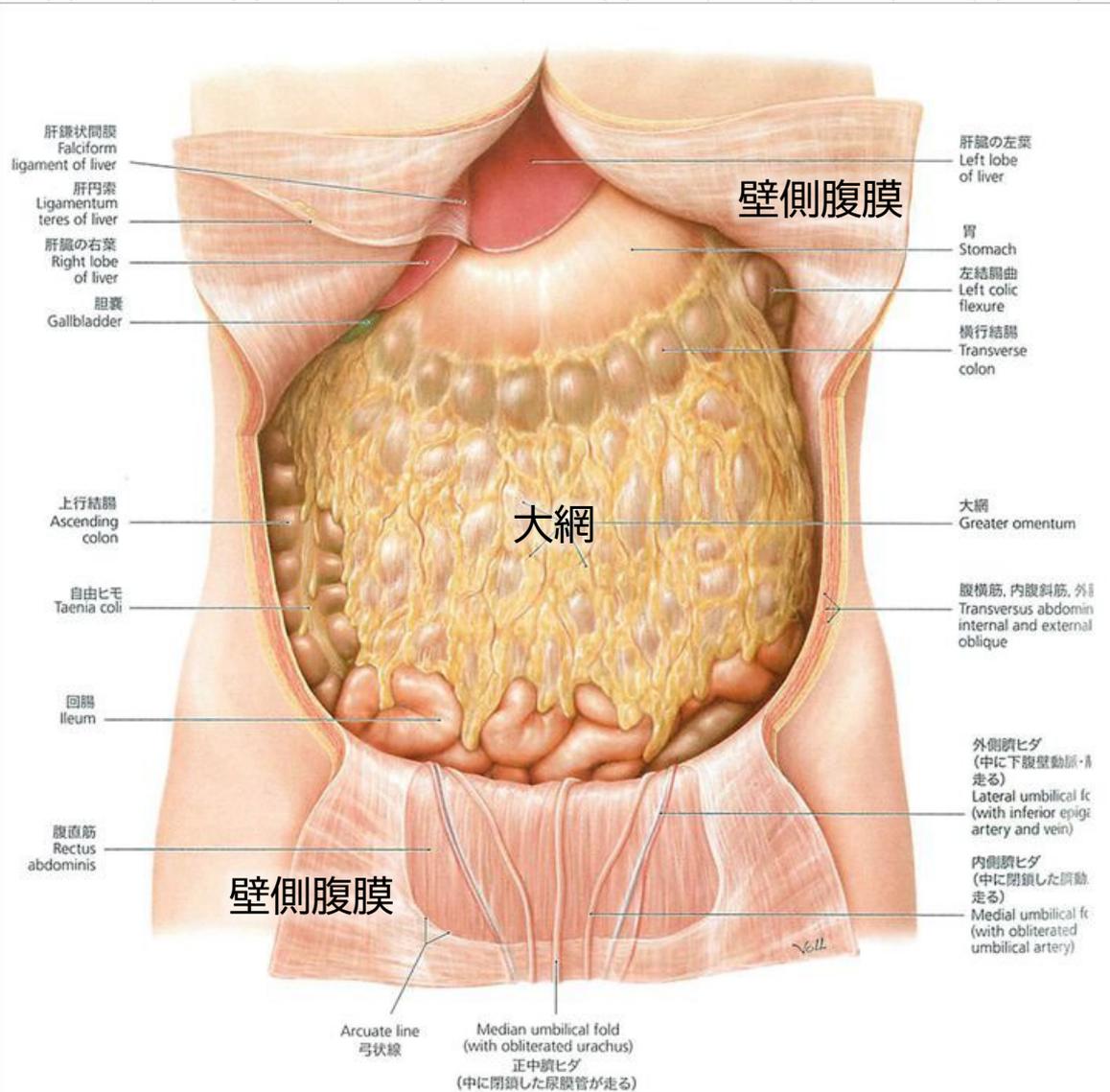


- 前の腹膜(腹側腹膜)と後の腹膜(背側腹膜)、各臓器を被う漿膜は一続き
- 胃に続く腹膜は
 - 小網
肝胃間膜・肝十二指腸間膜
 - 大網
- 横行結腸・S状結腸は横行/S状結腸間膜で、他の結腸・直腸は背側腹膜の延長で被われている



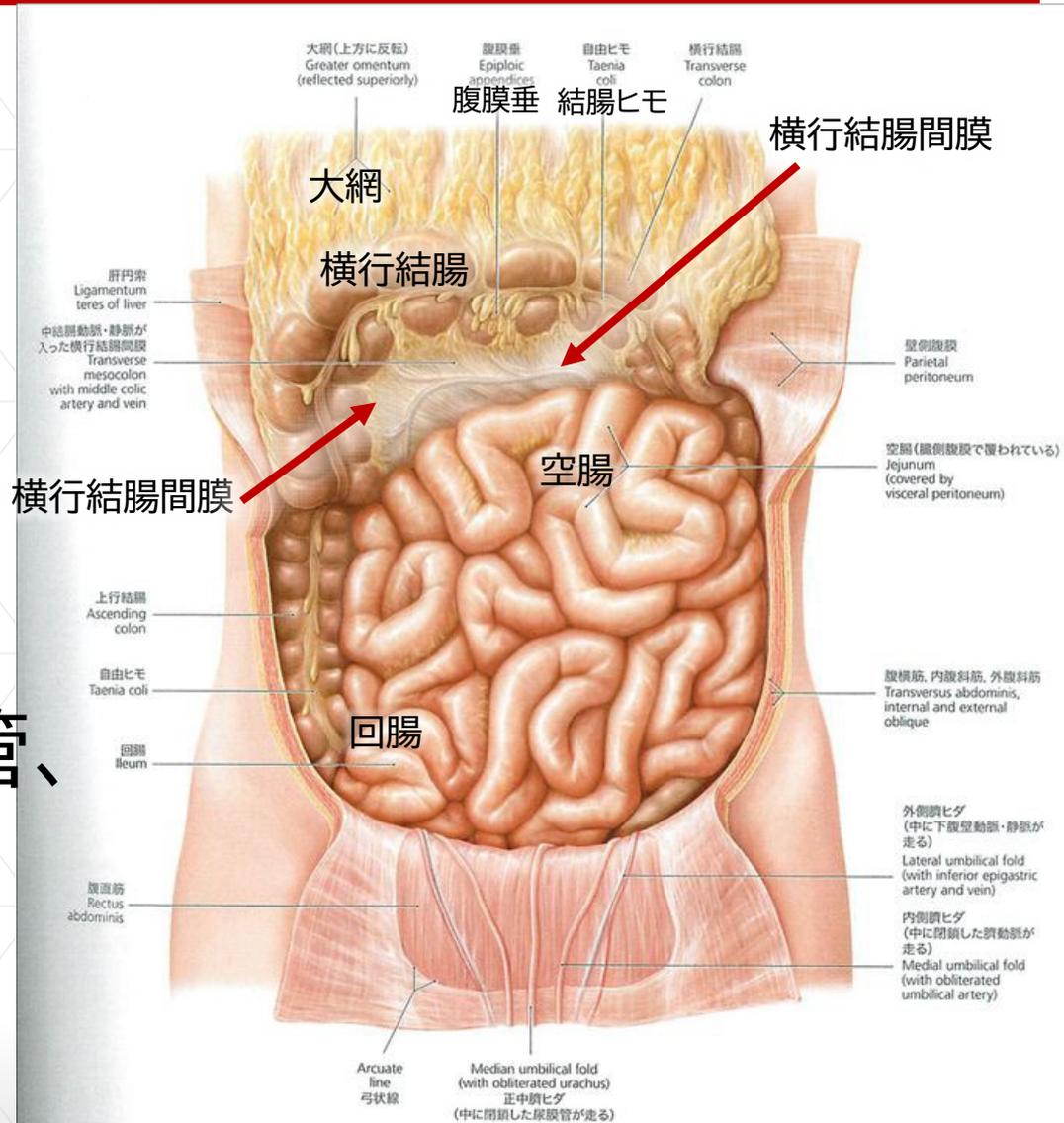
腹腔内臓器の位置関係

- 腹壁の裏は腹膜で被われる (壁側腹膜)
- 壁側腹膜で包まれた場所が腹腔 (正確には腹膜腔)
- 腹腔の中に腹部内臓が入っている



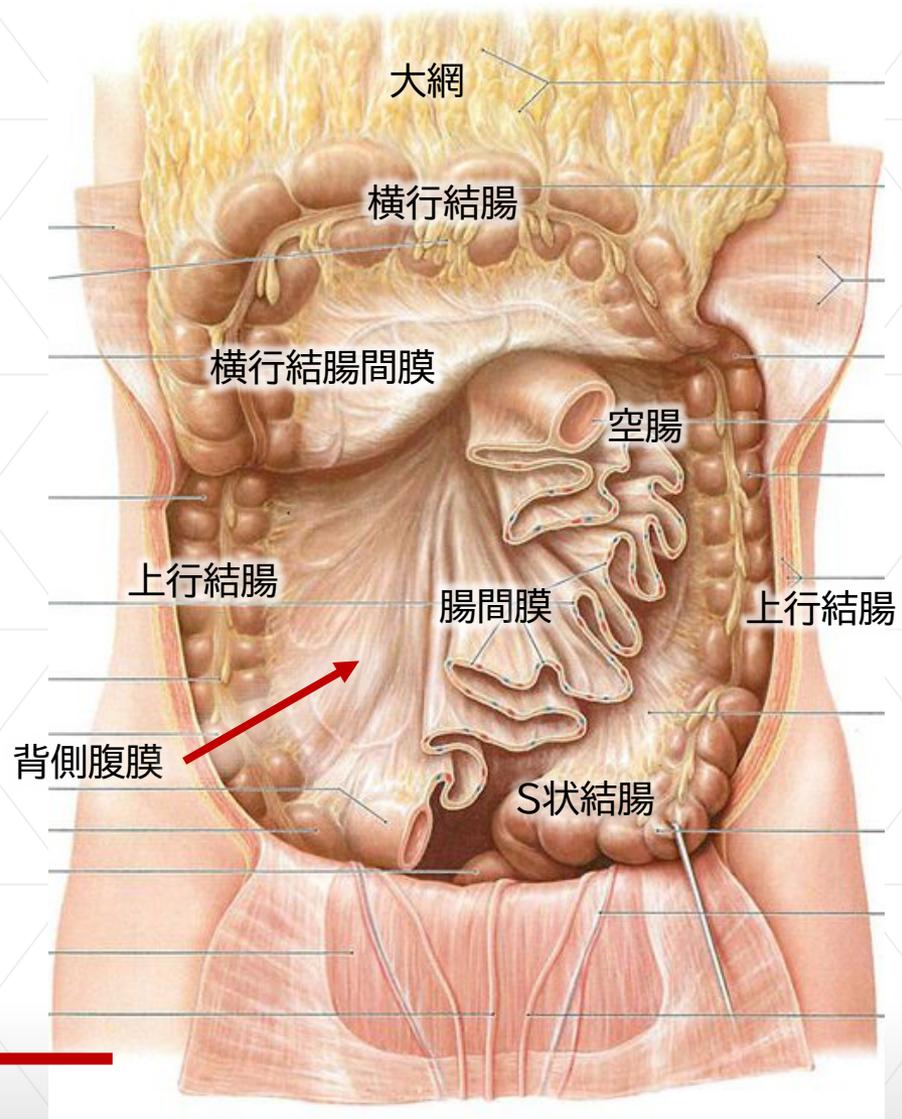
腹腔内臓器の位置関係

- 大網・横行結腸
 - ・横行結腸間膜を跳ね上げると空腸・回腸(狭義の小腸)
- 横行結腸間膜には動/静脈、リンパ管、神経などが走り、横行結腸とつながる



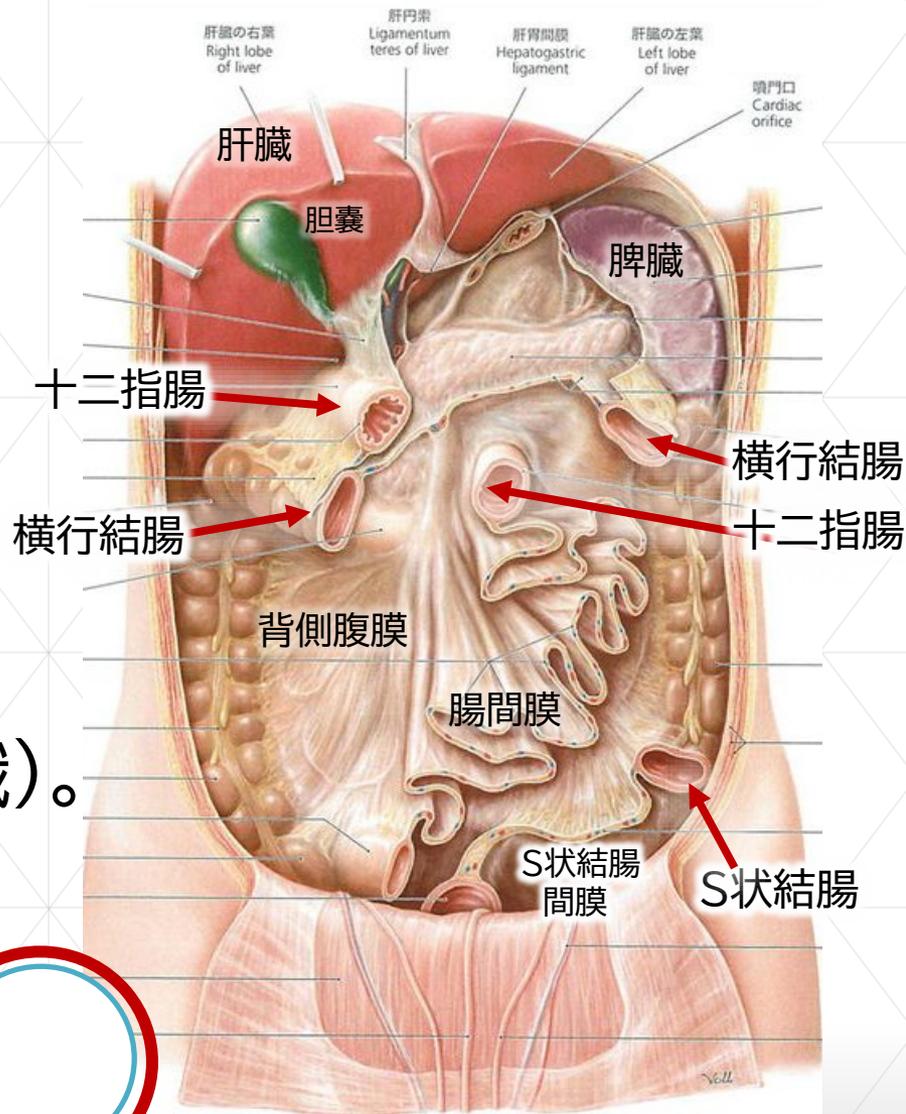
腹腔内臓器の位置関係

- 小腸を切断すると腸間膜が現れる
- 腸間膜は腹側背側2枚の腹膜ではさまれた結合組織で構成。動/静脈やリンパ管などの通り道



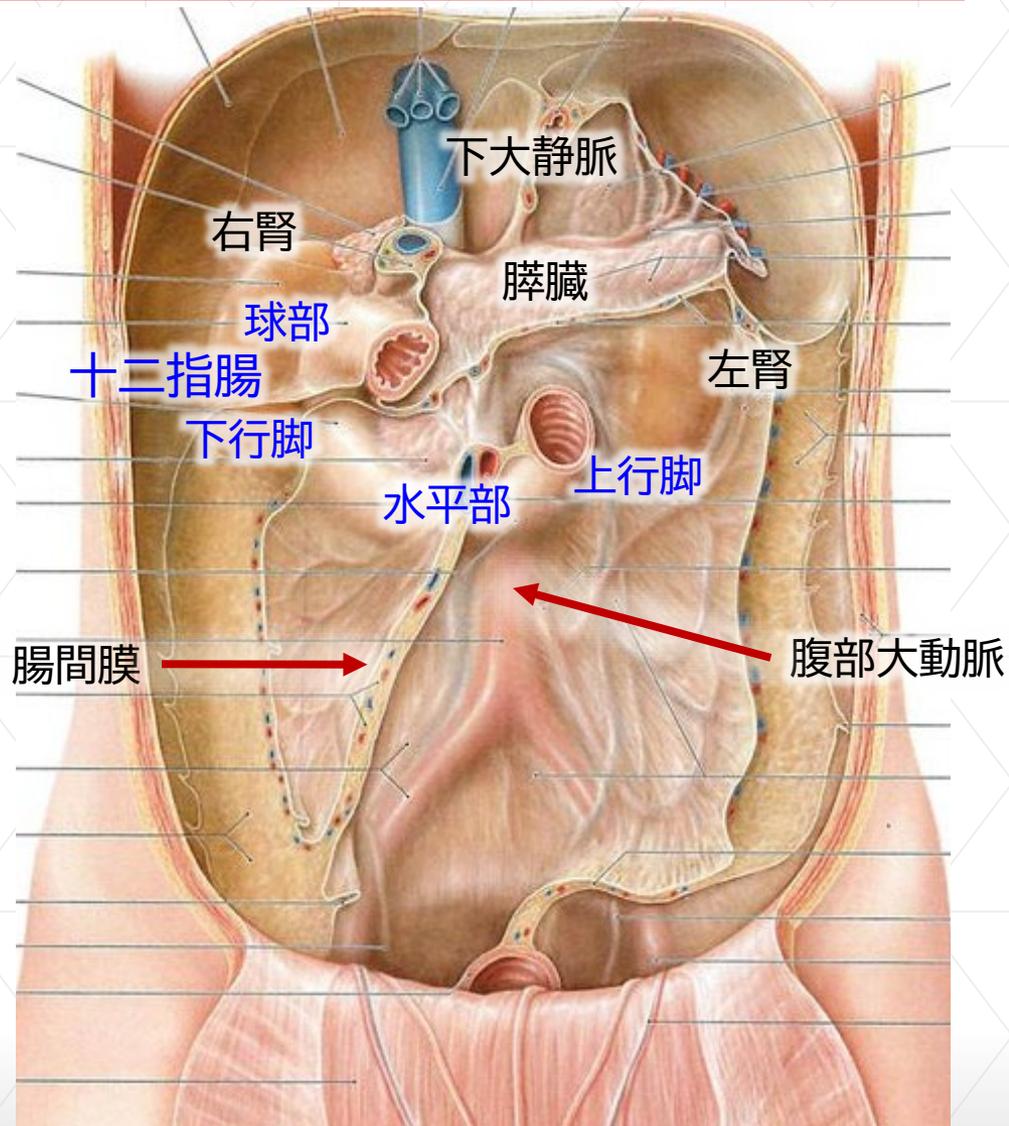
腹腔内臓器の位置関係

- 胃・大網・横行結腸を切断
→ 背中側に壁側腹膜
→ 膜の背側が後腹膜腔
- 肝下面を持ち上げると、
胆嚢、肝十二指腸間膜が
確認できる
- 上行/下行結腸は
背面が後腹膜腔(結合組織)。
前面・側面のみを
腹膜(漿膜)が被っている



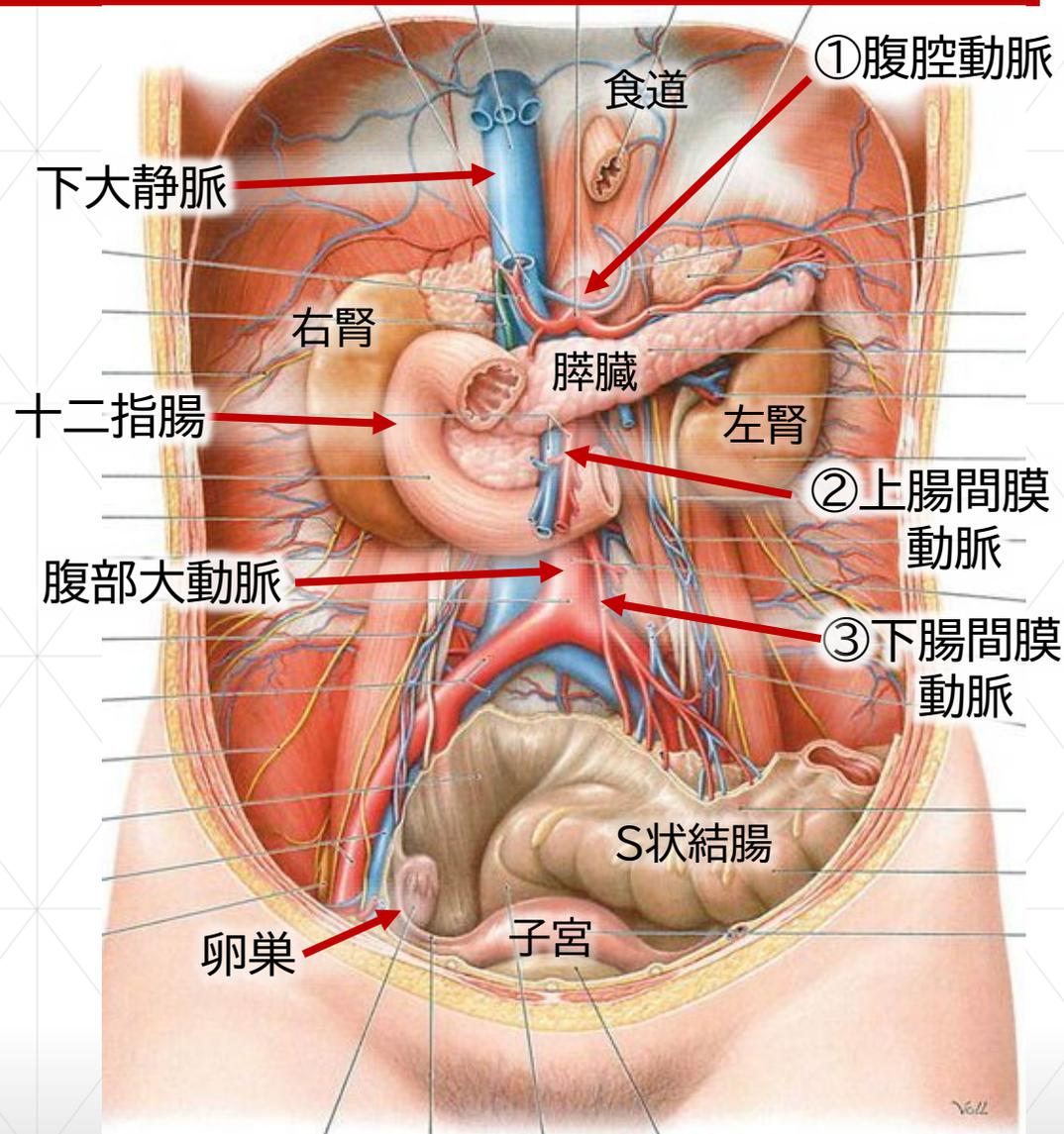
腹腔内臓器の位置関係

- 肝・胆道系と結腸・腸間膜を取り去ると、後腹膜臓器（表面を壁側腹膜が被っている）
- 十二指腸・膵臓、腎臓・副腎、腹部大動脈・下大静脈が後腹膜腔に存在



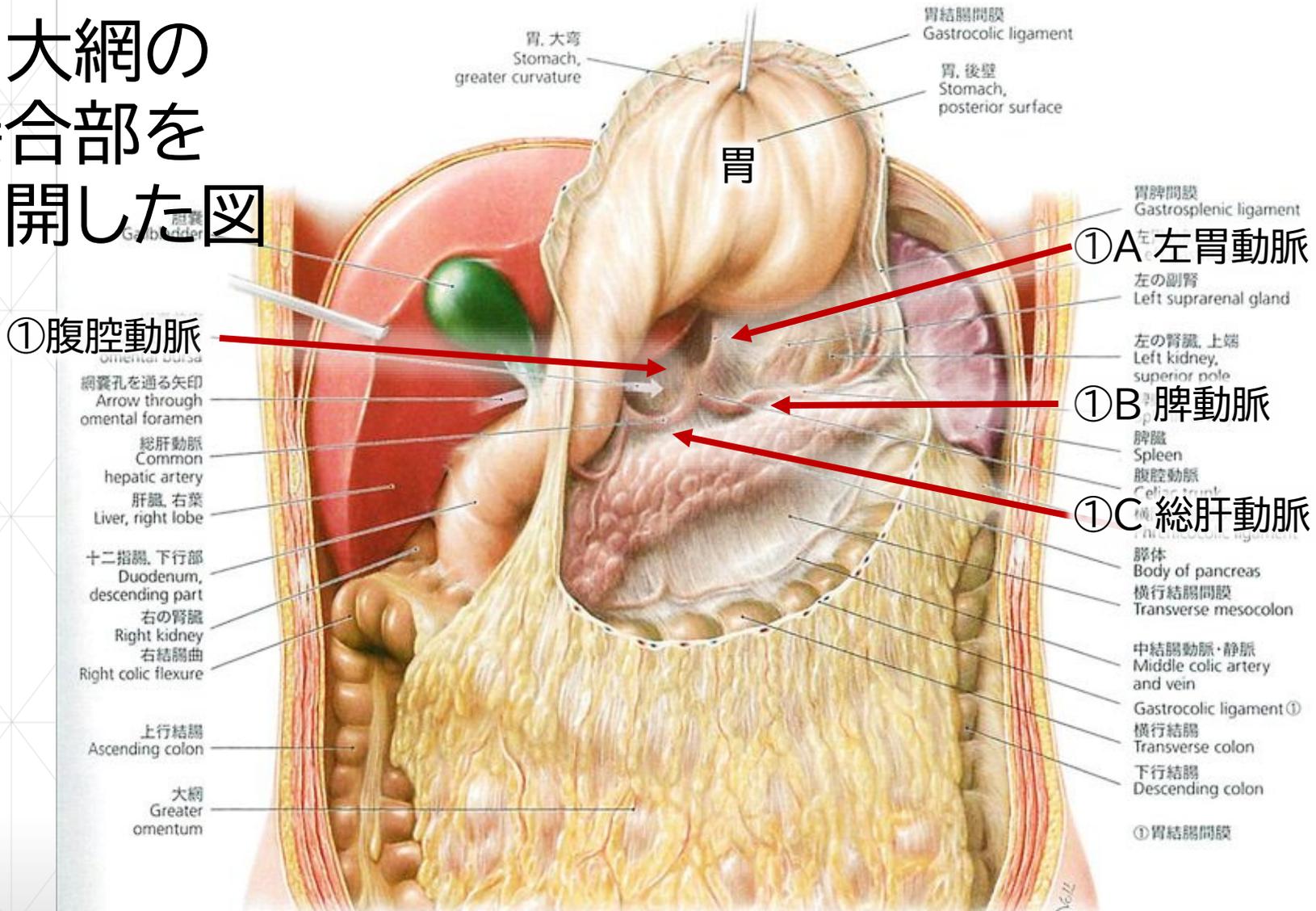
後腹膜臓器の位置関係

- 後腹膜腔を埋める脂肪・結合組織を取り去った状況
- 十二指腸・膵臓、腎臓・副腎、腹部大動脈・下大静脈が存在
- 後腹膜臓器以外にS状結腸・直腸、子宮・卵巣がみえている



腹腔内臓器の位置関係

● 胃・大網の接合部を切開した図



消化管壁の構造

- 上皮
 - 重層扁平上皮
 - 単層円柱上皮(腺上皮)

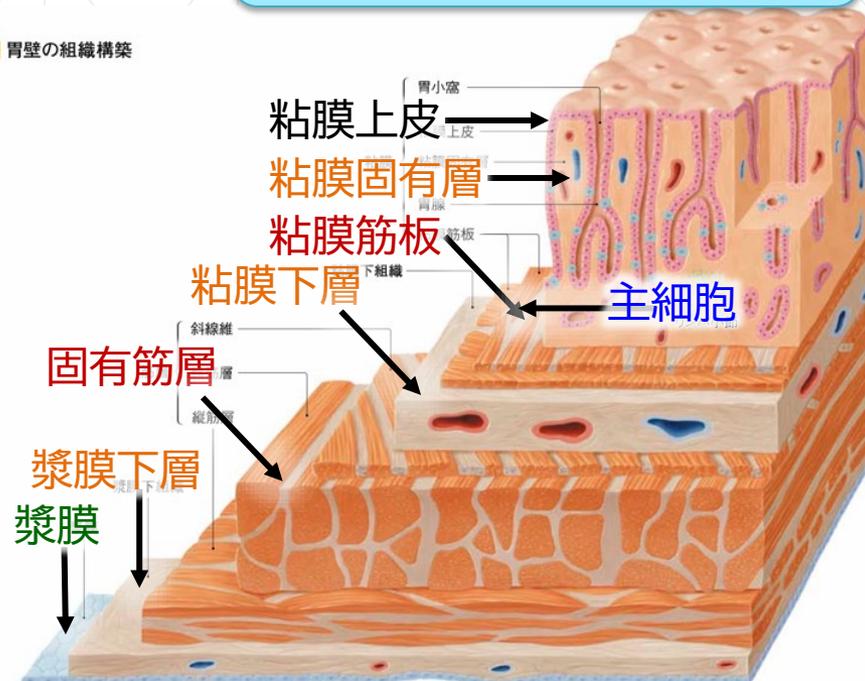
粘 膜

- 重層扁平上皮
 - 物理的**防御**
 - 粘液の分泌
- 単層円柱上皮
 - **吸収**(栄養・水分)
 - 粘液の分泌

- 粘膜固有層
- 粘膜筋板
- 粘膜下層
- 固有筋層
- 漿膜下層
- 漿膜(腹膜)

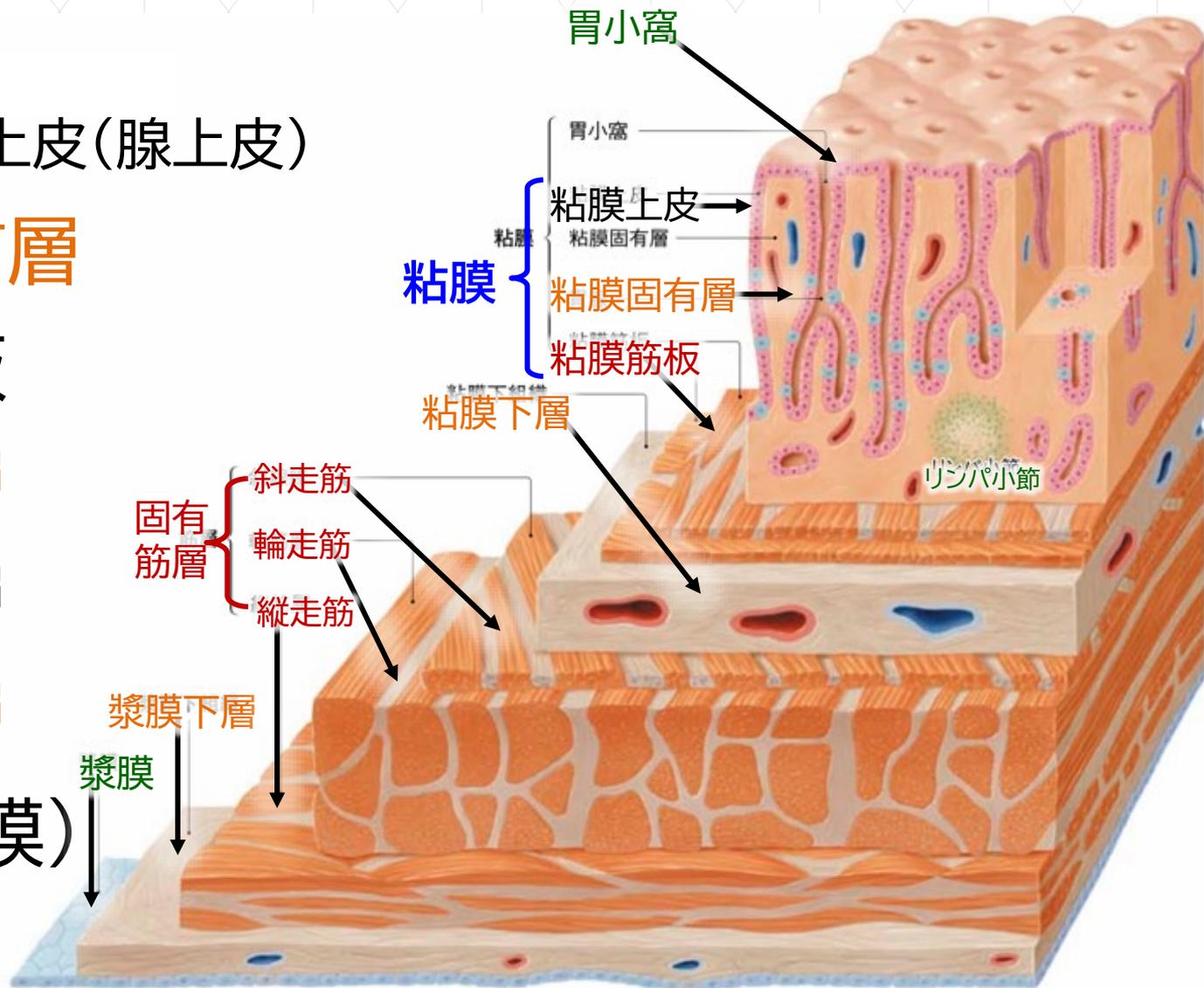
外 膜

43 胃壁の組織構築



消化管壁の構造(胃)

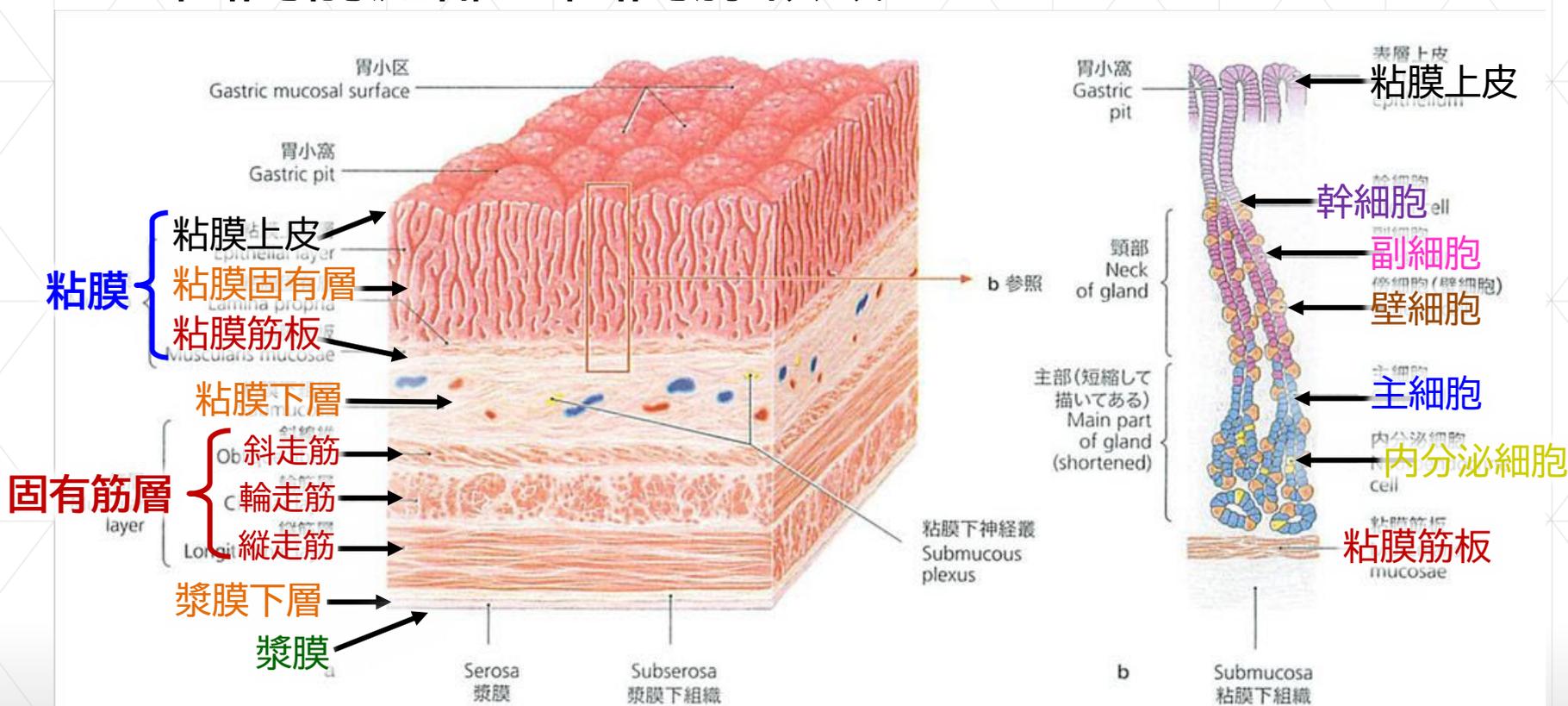
- 上皮
 - 単層円柱上皮(腺上皮)
- 粘膜固有層
- 粘膜筋板
- 粘膜下層
- 固有筋層
- 漿膜下層
- 漿膜(腹膜)



胃粘膜・胃底腺の構造

● 胃粘膜

- 胃底部の胃底腺領域
- 幽門前庭部の幽門腺領域



胃粘膜の違い

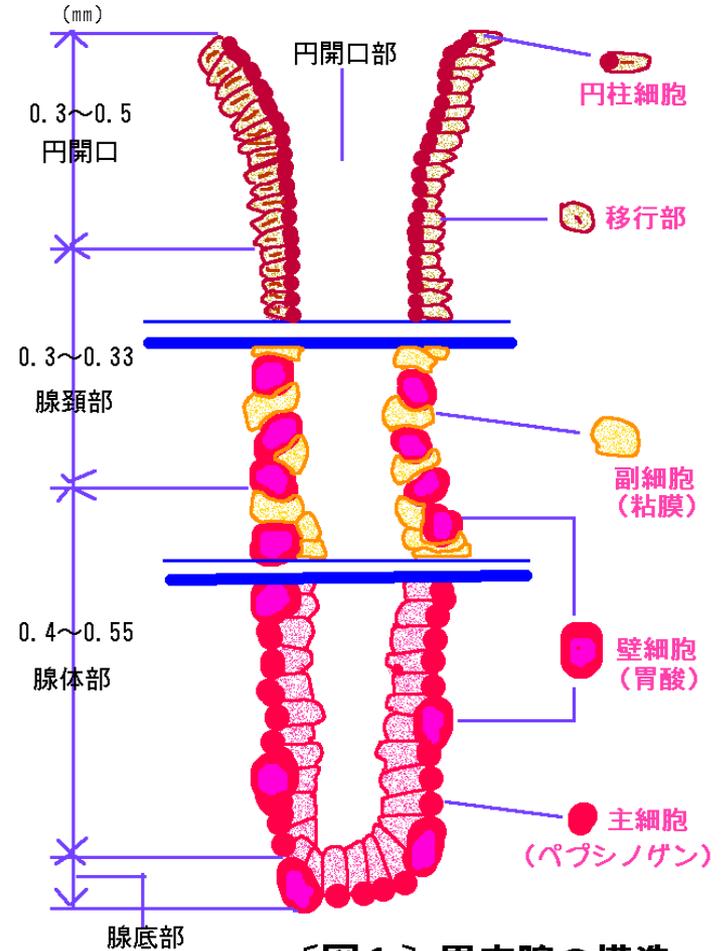
● 胃底腺

- 主細胞 ペプシノーゲン
- 副細胞 粘液
- 壁細胞 胃酸

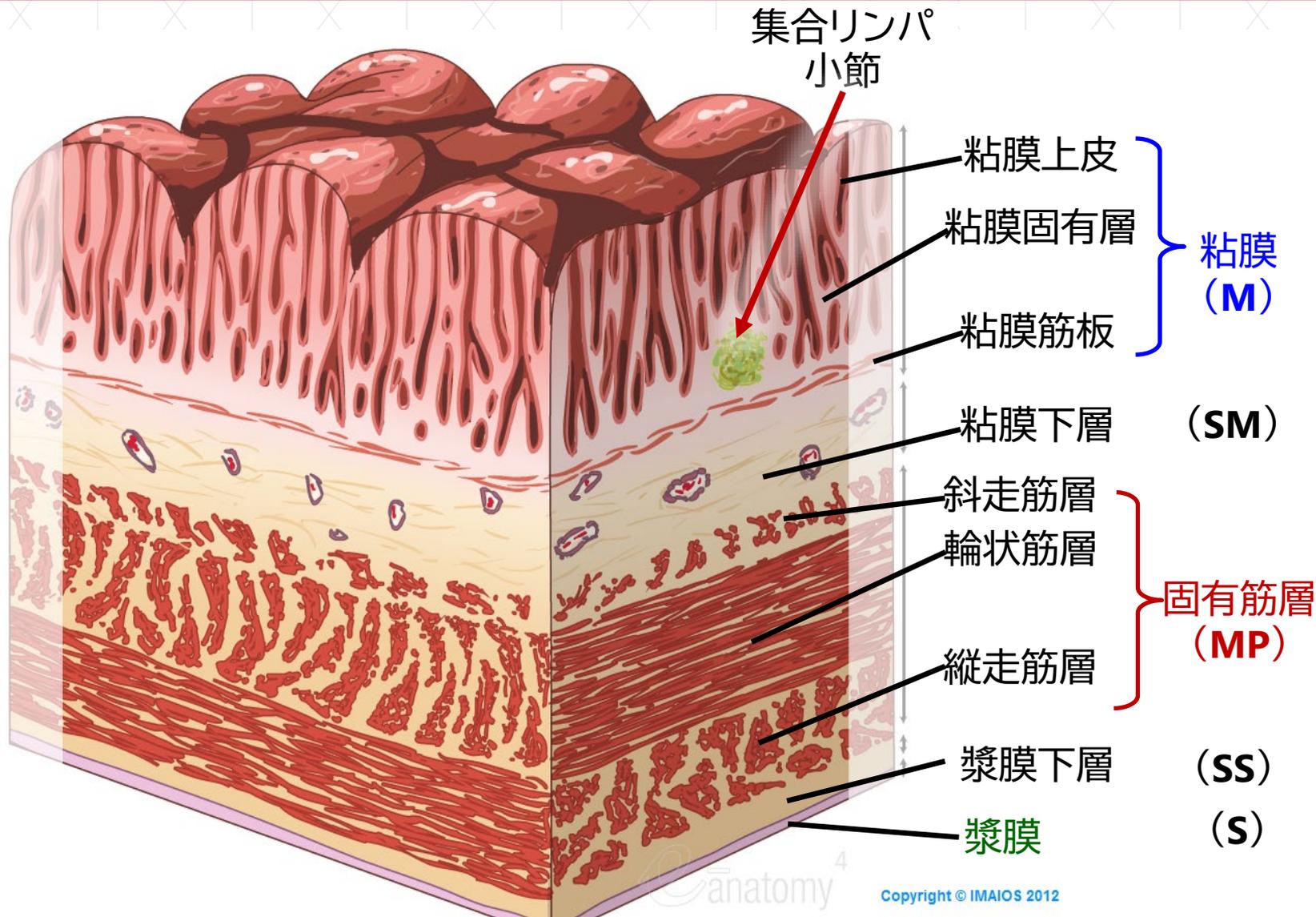
● 幽門腺

- 粘液腺

- 年齢とともに幽門腺領域が拡大

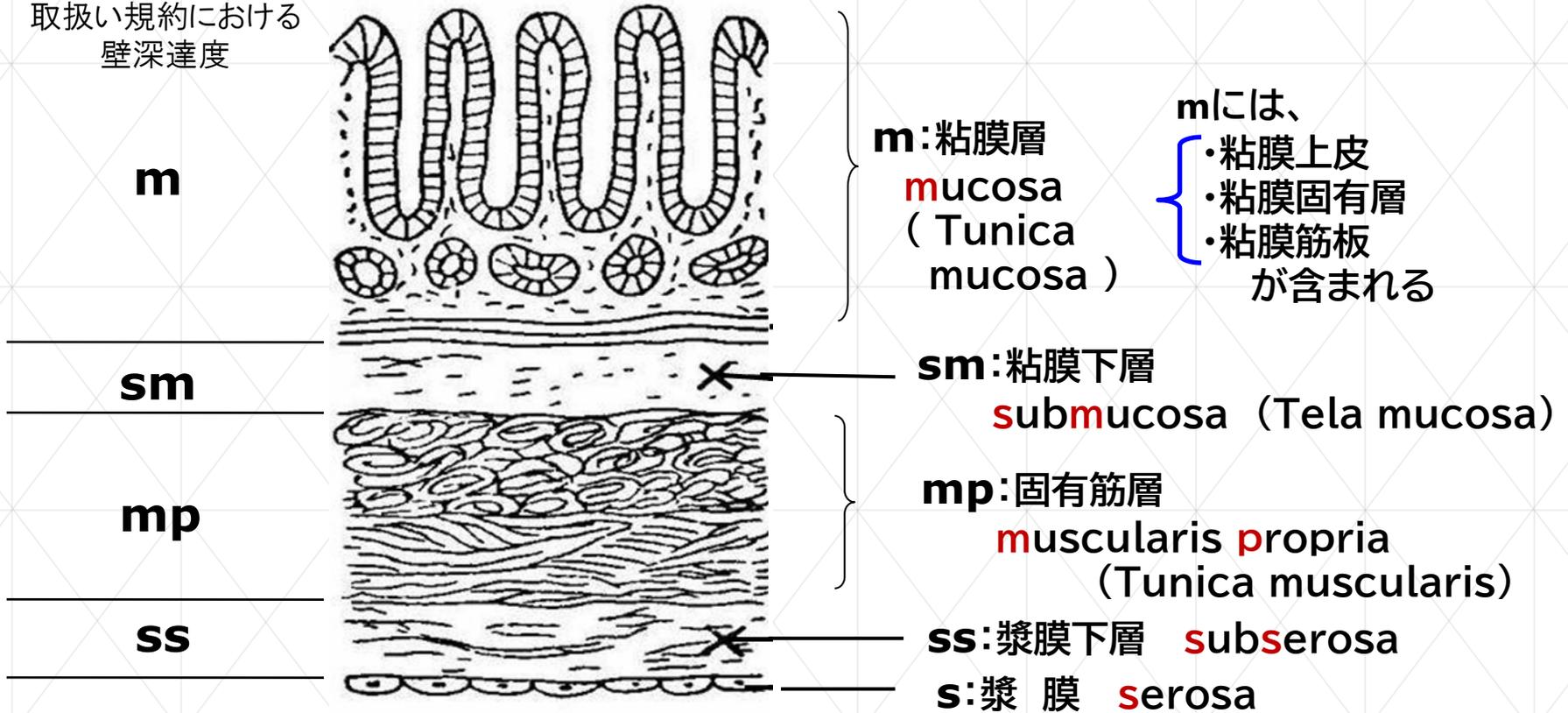


胃粘膜の構造



胃壁の断面図

取扱い規約における
壁深達度

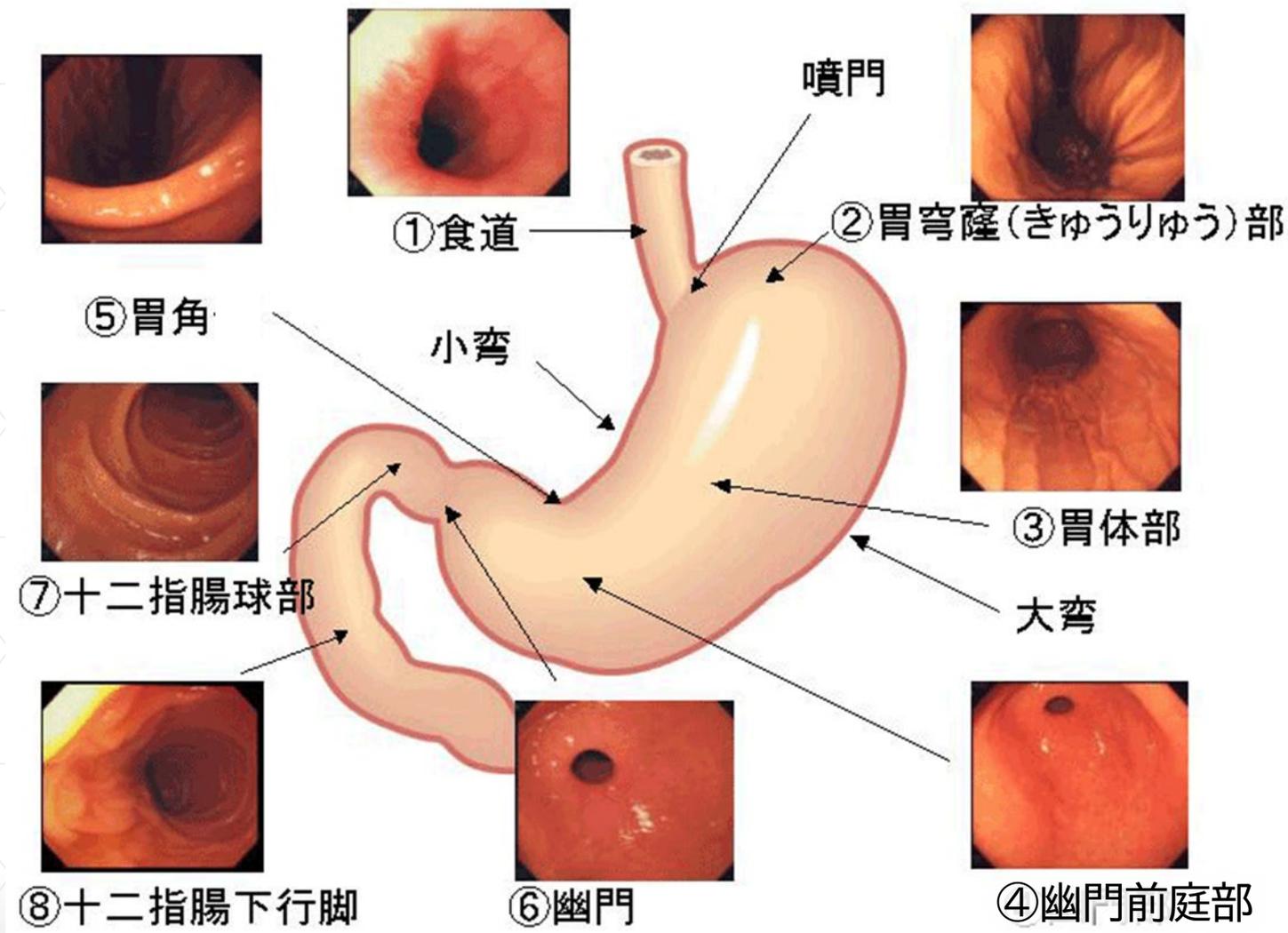


se (漿膜あるいはそれを越える浸潤)

si (隣接臓器に直接浸潤)

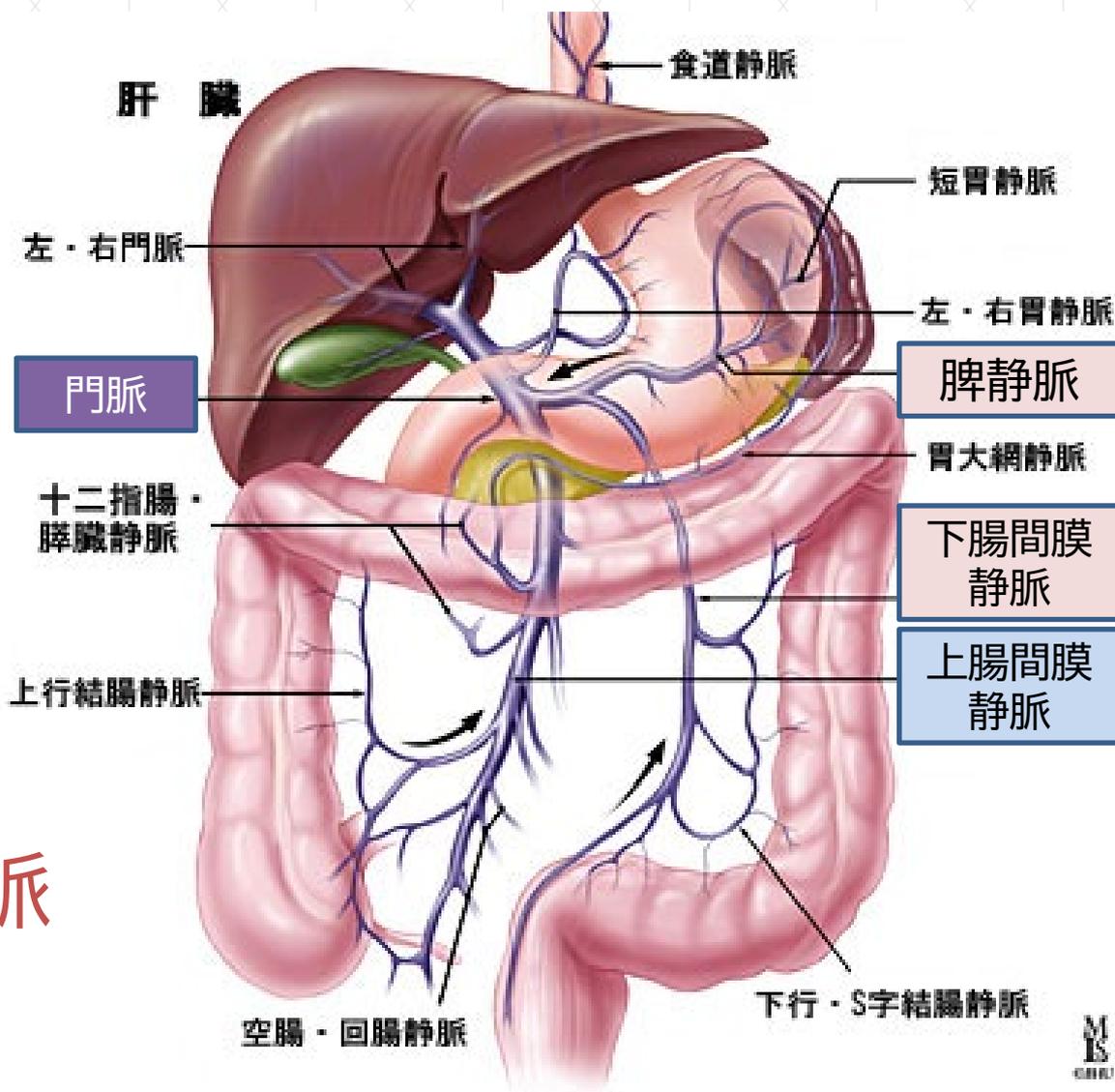
*壁深達度を表記する場合は、
se・漿膜を越え浸潤している
si・隣接臓器へ直接浸潤
に分類される。

内視鏡で見た胃



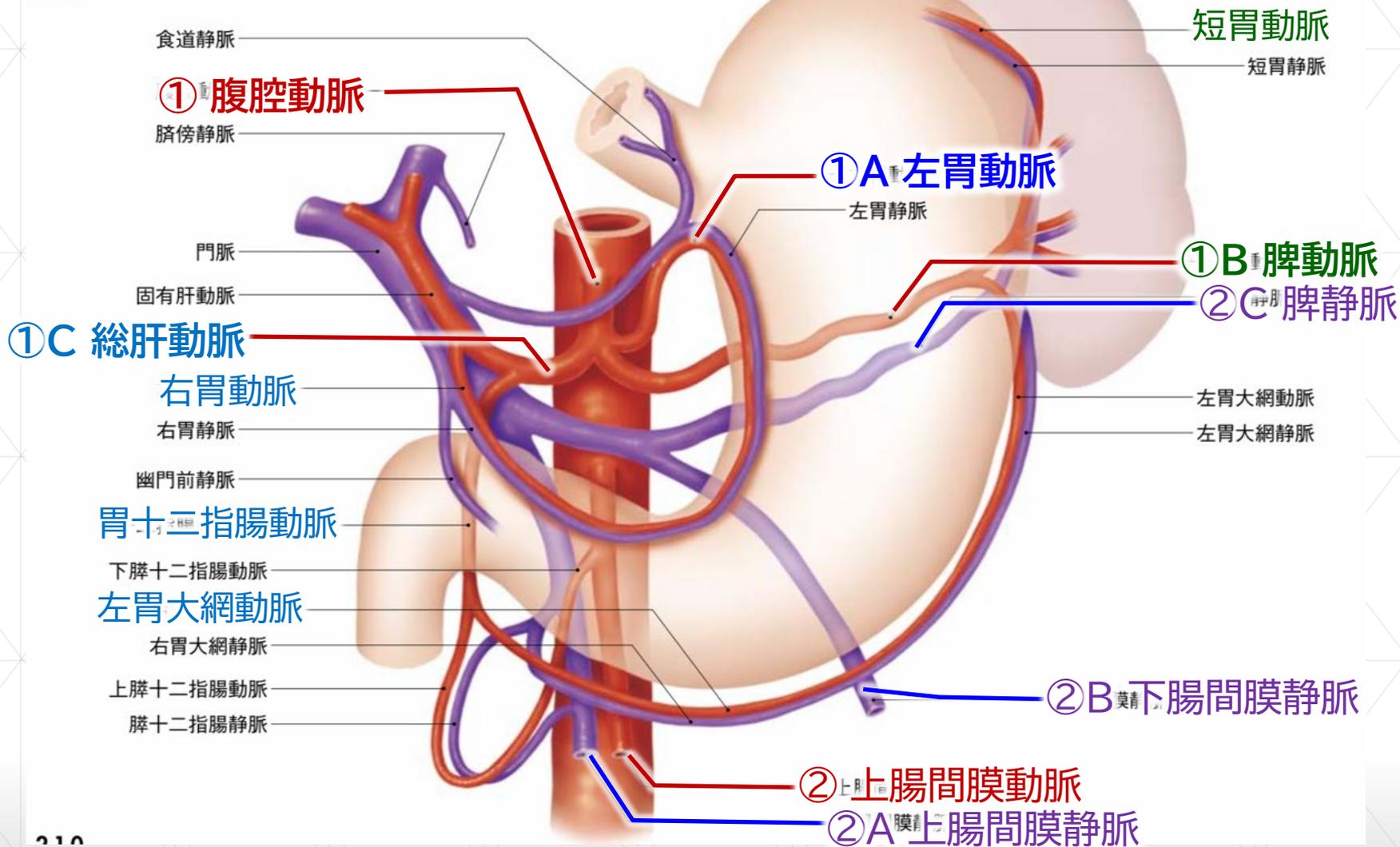
胃の静脈系(門脈系)

- 左胃静脈
→ 門脈
- 右胃静脈
→ 門脈
- 短胃静脈
→ 脾静脈
- 胃大網静脈
→ 下腸間膜静脈



胃の血管

40 胃の血管



胃の周囲と切除標本

- 肝→小網
→胃→大網

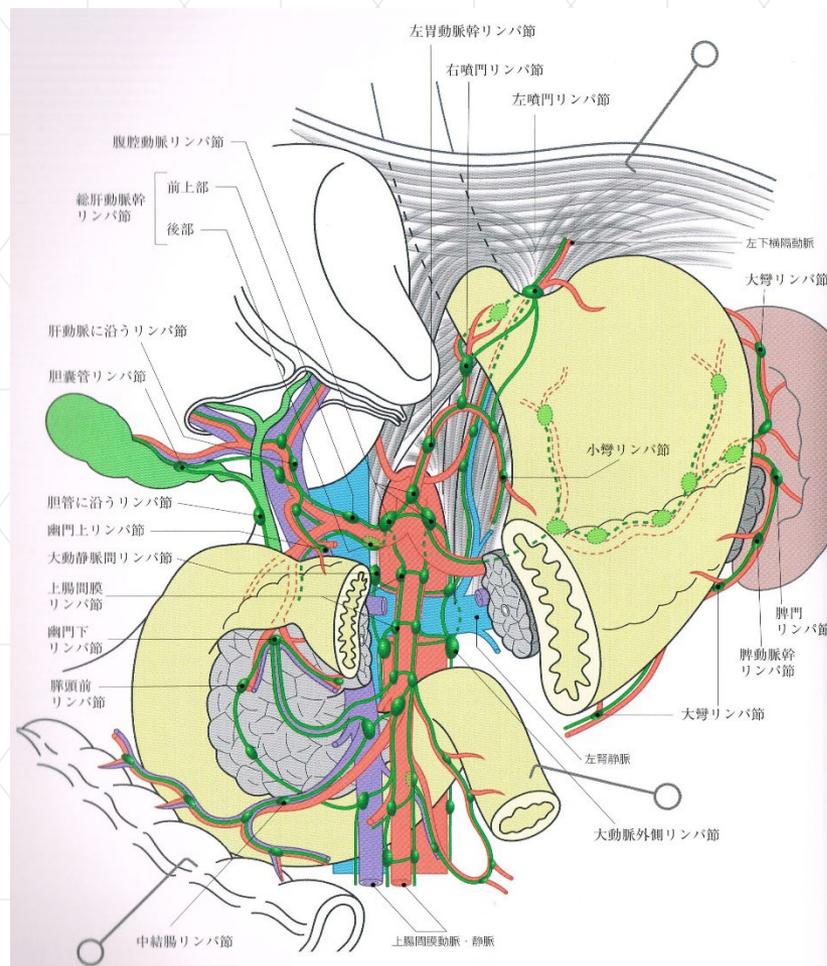


胃がん関連リンパ節



● 胃の周囲のリンパ節

- 小彎/大彎
- 噴門/幽門
- 左胃動脈
- 総肝動脈
- 脾動脈
- 腹腔動脈
- 肝十二指腸間膜内



腹部のリンパ節は、動脈の周囲に存在する

胃の領域リンパ節

- 1 右噴門
- 2 左噴門
- 3 小彎
- 4 大彎
- 5 幽門上
- 6 幽門下

総肝動脈

右胃大網静脈

左胃動脈

左胃動脈

腹腔動脈

総肝動脈

幽門上

幽門下

中結腸静脈

左噴門

右噴門

小彎
(左胃動脈)

小彎
(右胃動脈)

大彎
(右胃大網動脈)

大彎
(左胃大網動脈)

7 左胃動脈

8 総肝動脈

9 腹腔動脈

10 脾門

11 脾動脈幹

12 肝十二指腸間膜

13 臍頭後部

14 上腸間膜動/静脈

110 胸部下部食道

111 横隔上

112 後縦隔

総肝動脈

肝十二指腸
間膜

脾動脈幹

脾動脈

15 中結腸動脈

16 大動脈周囲

17 臍頭前部

18 下臍

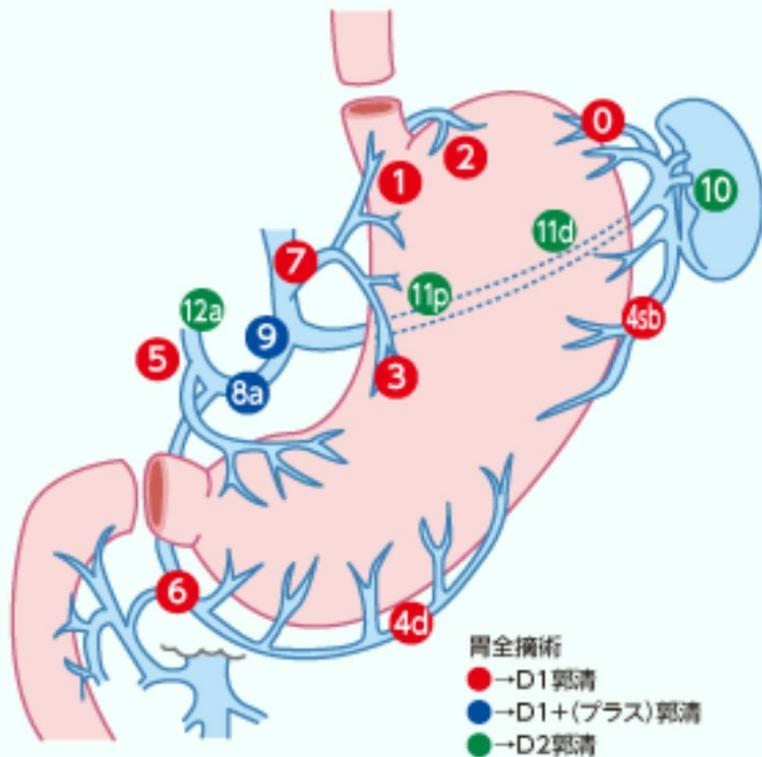
19 横隔膜下

20 食道裂孔部

胃切除と郭清リンパ節

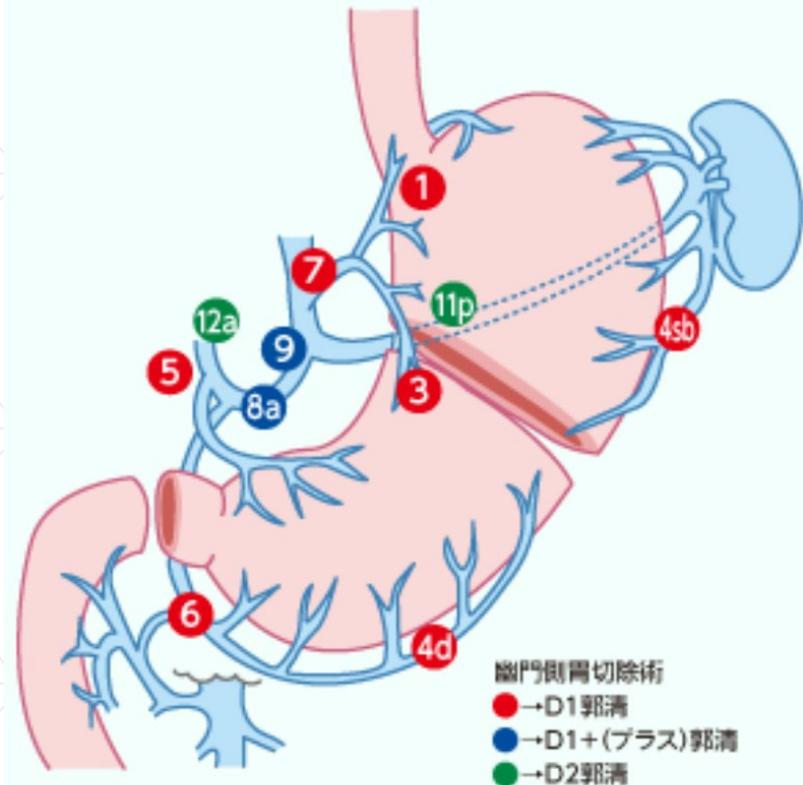
●胃全摘(TG)

●胃全摘術のリンパ節郭清



●幽門側胃切除(DG)

●幽門側胃切除術のリンパ節郭清

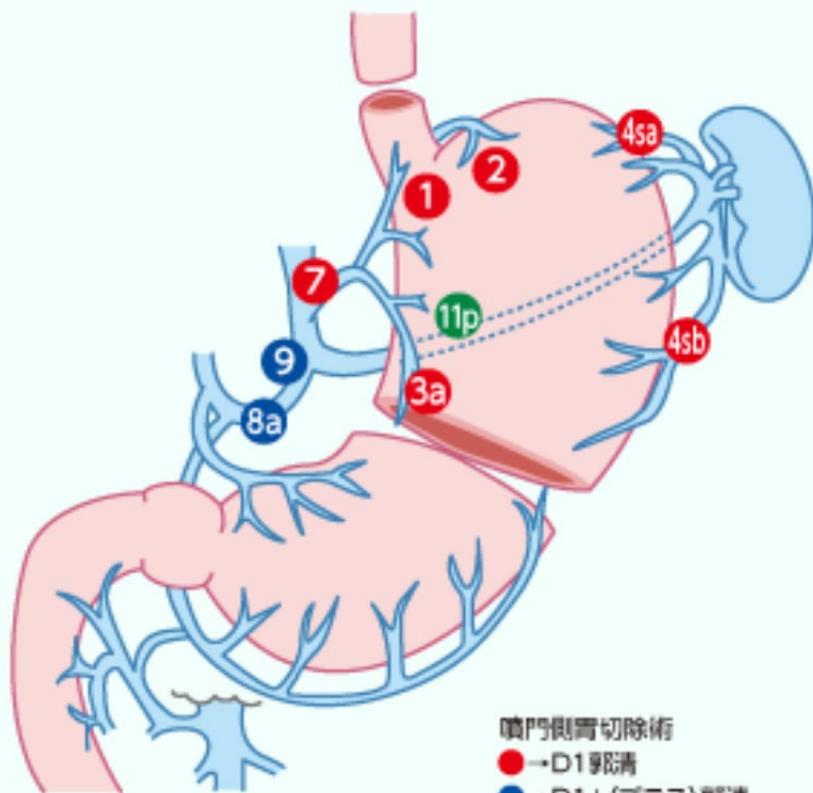


胃切除と郭清リンパ節

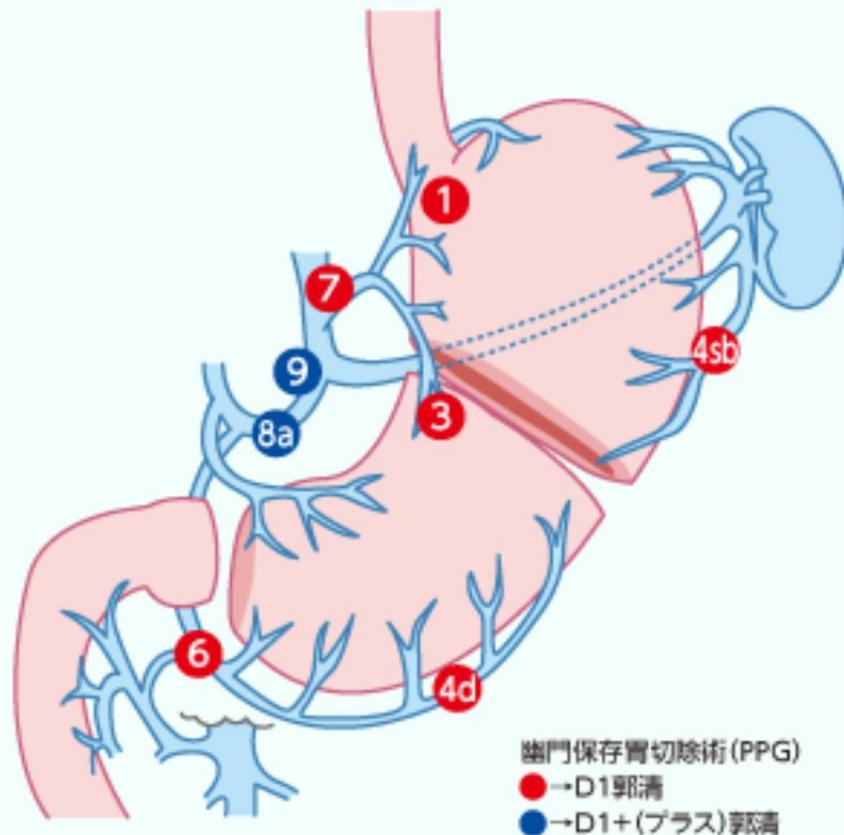
●噴門側胃切除 (PG)

●幽門保存胃切除 (PPG)

●噴門側胃切除術のリンパ節郭清

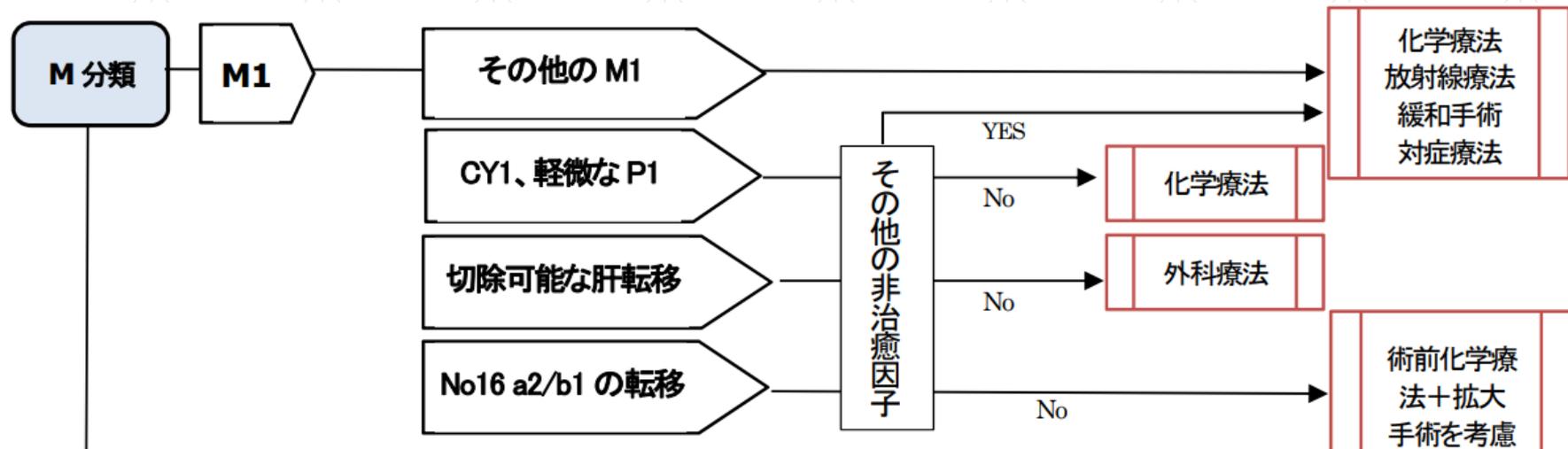


●幽門保存胃切除術 (PPG) のリンパ節郭清

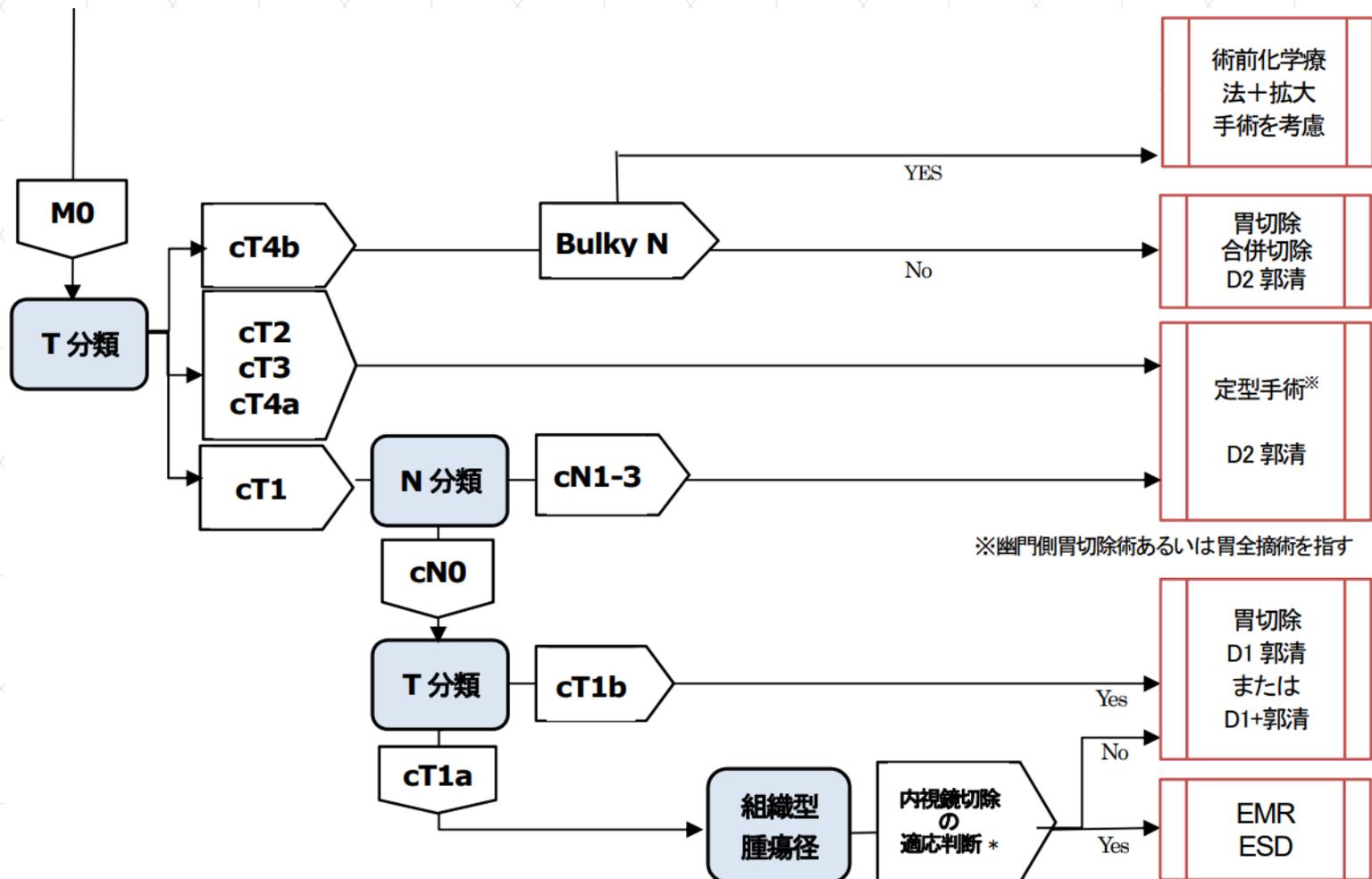


治療アルゴリズム(遠隔転移あり)《胃》

● M1 (遠隔転移あり)



治療アルゴリズム(遠隔転移なし)《胃》



内視鏡治療の適応

内視鏡治療の適応 《胃》

●EMR/ESD適応

- ≤ 2 cmの肉眼的粘膜内癌(**cT1a**)
- 分化型癌
- UL0(潰瘍および潰瘍瘢痕が存在しない)

●ESD適応

- ≤ 3 cmの肉眼的粘膜内癌(**cT1a**)
- 分化型癌
- UL1(潰瘍または潰瘍瘢痕が存在)
- ≤ 2 cmの肉眼的粘膜内癌(**cT1a**)
- 未分化型癌
- UL0(潰瘍および潰瘍瘢痕が存在しない)

治療アルゴリズム(病理学的分類)《胃》

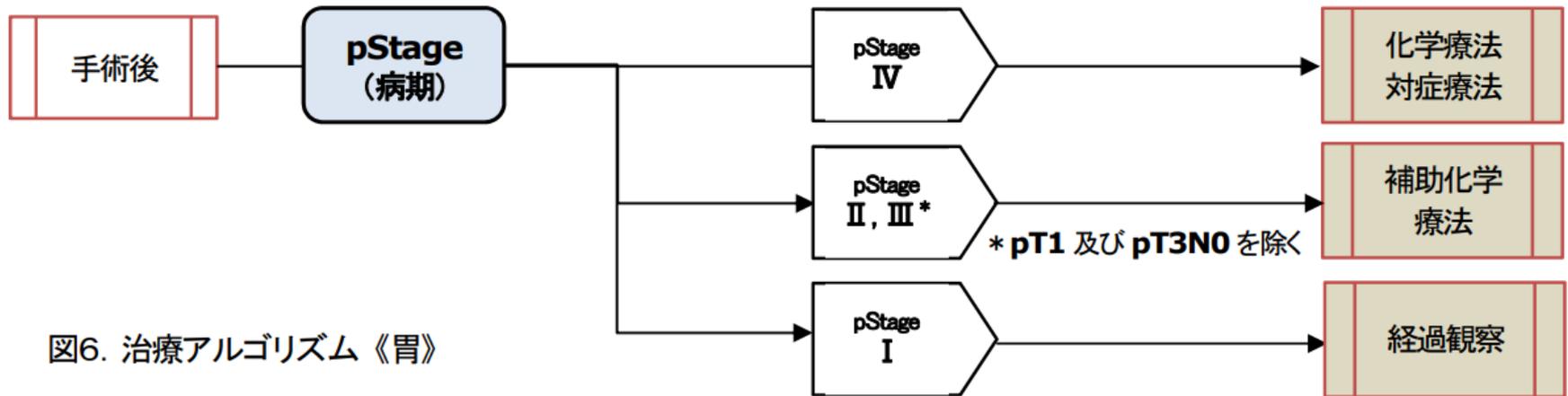


図6. 治療アルゴリズム《胃》

pT1 : 浸潤が固有筋層に及んでいない

pT3N0 : 浸潤が固有筋層を超え、領域リンパ節転移なし



2024-5に第16版予定

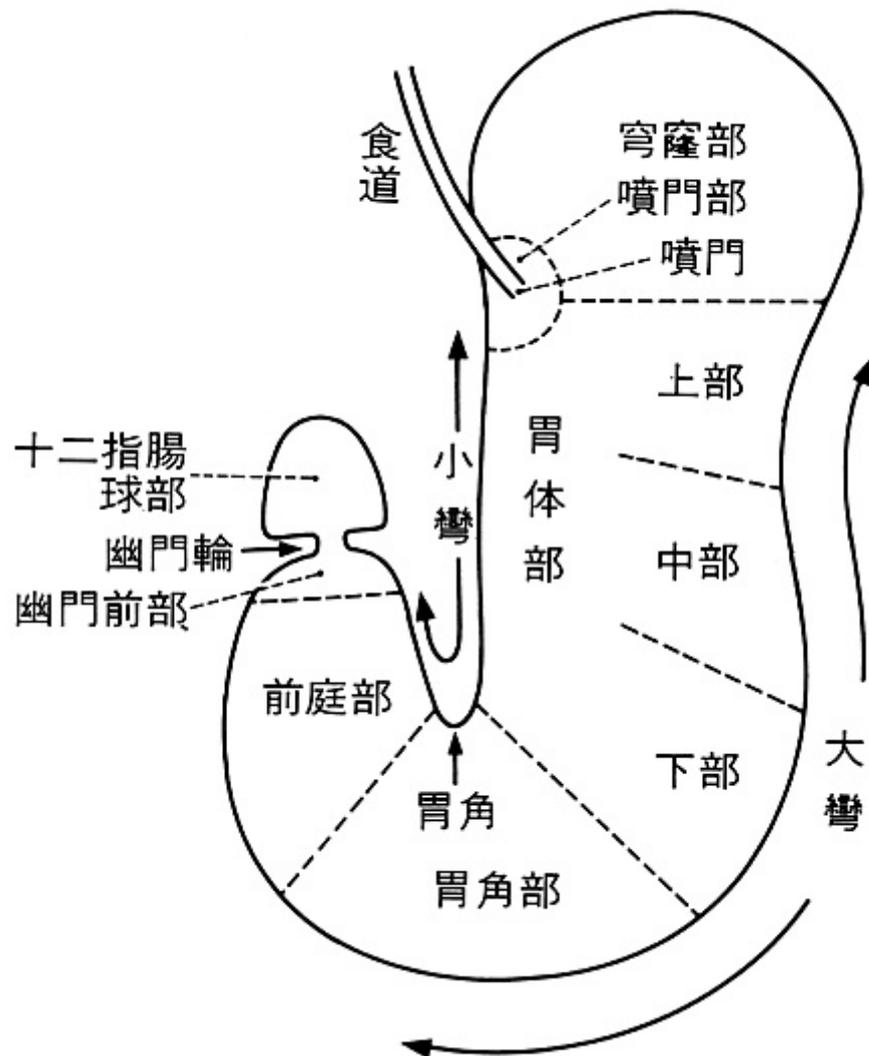
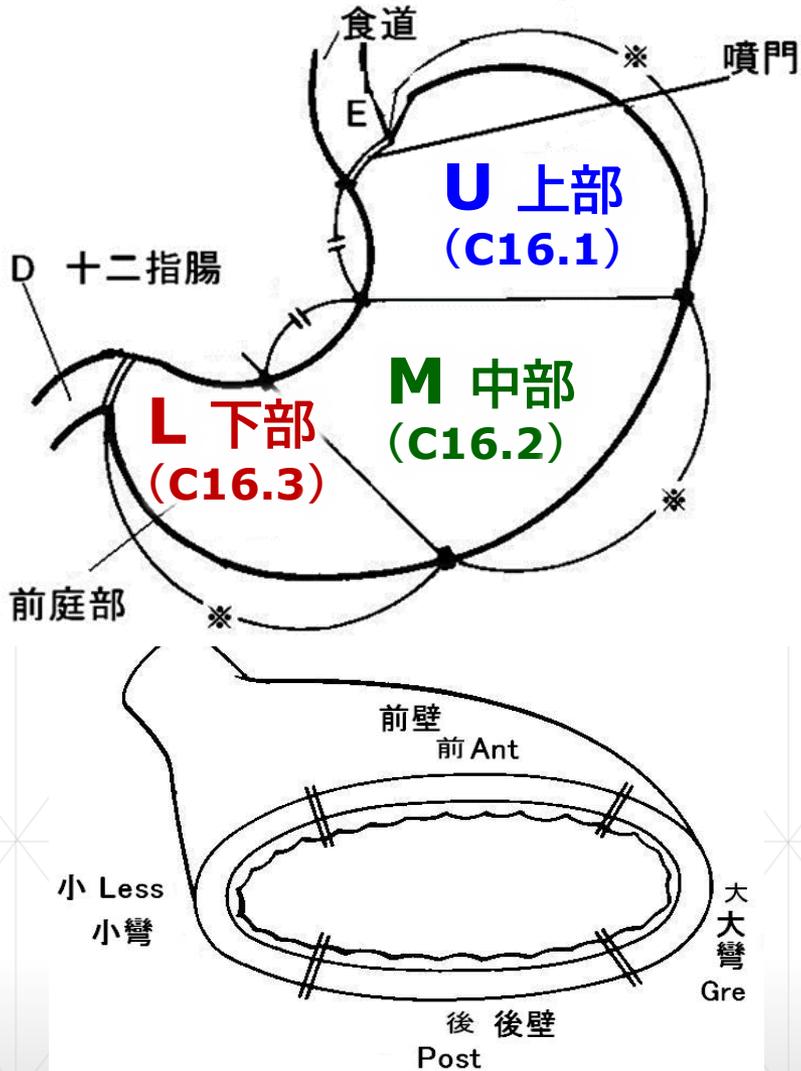
胃がんの病期分類

局在(部位)とその亜部位



取扱い規約での表記

内視鏡用語



局在コード 《胃》



ICD-O局在	取扱い規約 (第15版)	診療情報所見	備考
C15. __	E(食道)	食道(C15.)を参照	食道胃接合部(EGJ)から2cmの範囲の食道側に癌の中心があるとき、 C15.2 あるいは C16.0 のどちらにコードするかは主治医の意見に従う。
C.16.0	U, NOS	噴門, NOS (胃噴門、噴門部) 噴門食道接合部 (食道胃接合部)	噴門部癌、噴門食道接合部癌などの記載がある場合にはあるいは食道胃接合部(EGJ)から2cmの範囲の胃側に癌の中心がある場合には、 C16.0 をコードする。
C16.1		胃底部 (胃底) 穹窿部	噴門部癌、噴門食道接合部癌などの記載がない場合は、 C16.1 (胃底部)にコードする。
C16.2	M, NOS	胃体部 (胃体)	
C16.3	L, NOS	胃前庭部 幽門前庭	
C16.4		幽門 (幽門管) 幽門前部	該当する取扱い規約部位なし
C16.5	胃角 注1	胃小弯, NOS	胃角に癌が発生した場合は、 C16.5 を割り当てる。
C16.6		胃大弯, NOS	ICDコードに該当する取扱い規約部位コードなし
C16.8		胃の境界部病巣 胃前壁, NOS 胃後壁, NOS	ICDコードに該当する取扱い規約部位コードなし
C16.9	上記部位の記載がなく "胃"の記載のみのもの	胃, NOS(部位不明)	

腫瘍占居部位

注1:胃角と胃角部は同義ではない。胃角部は胃角より広範囲を指す。より詳細な部位(胃体部または胃前庭部)を確認する。

*取扱い規約で定めている部位のみが記載されている場合(U, M, Lのみ)は、対応表に基いて局在コードを割り当てる。

取扱い規約では、病巣が隣接する2領域以上にまたがっている場合、主な領域を先に書くことになっている(例:LM、MLUなど)ので、最初に記載されている部位を局在コードとする。

形態コード(病理組織)の扱い 《胃》

- **UICC**の対象は、癌腫(Carcinoma)のみ
 - 組織型が不明瞭な場合(8000/3など)で、特別な組織型と考えられていない場合、癌腫相当と扱う。

以下の悪性腫瘍については、別のUICC病期分類を適用

- 1) 神経内分泌腫瘍(旧:カルチノイド)
- 2) GIST(消化管間質腫瘍)
- 3) 1)/2)以外の間質性腫瘍(平滑筋肉腫など)
- 4) 悪性リンパ腫

- **がん登録での特別な追加ルール**

- 分化度のみが記載されている場合、**8140/3**(腺癌)と解釈してコードする。
 - 高分化癌 → **8140/31**
 - 中分化癌 → **8140/32**
 - 低分化癌 → **8140/33**
- 内分泌細胞癌(Endocrine Carcinoma)は、**8246/3_**でコード。
 - ※ **胃癌取扱い規約第15版**には、**8041/3_**と示されている。

取扱い規約の組織型略語



● 略語で記載されている場合、以下を参考

■ 乳頭腺癌

pap

8260/3_

■ 管状腺癌

tub

8211/3_

■ 高分化管状腺癌

tub1

8211/31

■ 中分化管状腺癌

tub2

8211/32

■ 低分化腺癌

por

8140/33

■ 充実型低分化腺癌

por1

8140/33

■ 非充実型低分化腺癌

por2

8140/33

■ 印環細胞癌

sig

8490/3_

■ 粘液癌

muc

8480/3_

形態コード(病理組織) 《胃》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
上皮性腫瘍	Epithelial tumor	
一般型	Common Type	
乳頭腺癌	Papillary adenoca. (pap)	8260/3
管状腺癌	Tubular adenoca. (tub)	8211/3
高分化型	well differentiated type (tub1)	8211/31
中分化型	moderately differentiated type (tub2)	8211/32
低分化腺癌	Poorly differentiated adenoca. (por)	8140/33
充実型	Solid type (por1)	8140/33
非充実型	Non-solid type (por2)	8140/33
印環細胞癌	Signet-ring ca. (sig)	8490/3
粘液癌	Mucinous adenoca. (muc)	8480/3
特殊型	Special type	
リンパ球浸潤癌	Ca. w/ lymphoid stroma	8512/3
胎児消化管類似癌	Adenoca. w/ enteroblastic differentiation	8140/3
肝様腺癌	Hepatoid adenoca.	8576/3
胃底腺型腺癌	Adenoca. Of fundic gland type	8140/3
腺扁平上皮癌	Adenosquamous ca.	8560/3
扁平上皮癌	Squamous cell ca.	8070/3
未分化癌	Undifferentiated ca.	8020/3
その他の癌		

形態コード(病理組織) 《胃》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
上皮性腫瘍 特殊型(つづき)	Epithelial tumor Special type	
内分泌細胞癌	Endocrine cell / Neuroendocrine ca.	8246/3
NEC G3(小細胞癌)	Small cell NEC	8041/3
NEC G3(大細胞癌)	Large cell NEC	8013/3
MANEC	Mixed adenoneuroendocrine ca.	8244/3
カルチノイド腫瘍	Carcinoid tumor	8240/3
NET G1	NET G1	8240/31
NET G2	NET G2	8240/32
非上皮性腫瘍		
軟部腫瘍		
胃腸管間質腫瘍	Gastrointestinal stromal tumor (GIST)	8936/3
肉腫、NOS	Sarcoma, NOS	8800/3
平滑筋肉腫	Leiomyosarcoma, NOS	8890/3
リンパ腫		
MALTリンパ腫 (節外性辺縁帯リンパ腫)	MALT Lymphoma (Extranodal marginal zone B-cell lymphoma)	9699/36
濾胞性リンパ腫	Follicular lymphoma	9690/3
マントル細胞リンパ腫	Mantle cell lymphoma	9673/3
びまん性大細胞性リンパ腫	Diffuse large B-cell lymphoma (DLBCL)	9680/36

形態コード(病理組織) 《胃》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
良性上皮性腫瘍、前癌状態	<i>Benign epithelial tumours and precursors</i>	
胃底腺ポリープ	Fundic gland polyps	—
胃過形成性ポリープ	Gastric hyperplastic polyps	—
胃異形成	Gastoric dysplasia	
上皮内腺腫瘍、低異型度	Glandular intraepithelial neoplasia, low grade	8148/0
上皮内腺腫瘍、高異型度	Glandular intraepithelial neoplasia, high grade	8148/2
鋸歯状異形成	Serrated dysplasia	8213/_
腸管型異形成	Intestinal-type dysplasia	?
腺窩型(胃型)異形成	Foveolar-type (gastric-type) dysplasia	?
腸管型胃腺腫	Intestinal-type gastric adenoma	
腸管型腺腫、低異型度	Intestinal-type adenoma, low grade	8144/0
腸管型腺腫、高異型度	Intestinal-type adenoma, high grade	8144/2
腺窩型胃腺腫	Foveolar-type adenoma	
腺腫様ポリープ、低異型度	Adenomatous polyp, low-grade dysplasia	8210/0
腺腫様ポリープ、高異型度	Adenomatous polyp, high-grade dysplasia	8210/2
胃幽門腺腺腫	Gastric pyloric gland adenoma (PGA)	
腺腫様ポリープ、低異型度	Adenomatous polyp, low-grade dysplasia	8210/0
腺腫様ポリープ、高異型度	Adenomatous polyp, high-grade dysplasia	8210/2
胃酸分泌腺腺腫	Oxyntic gland adenoma (OGA)	
腺腫様ポリープ、低異型度	Adenomatous polyp, low-grade dysplasia	8210/0
腺腫様ポリープ、高異型度	Adenomatous polyp, high-grade dysplasia	8210/2

形態コード(病理組織) 《胃》

病理組織名(日本語)	英語表記	形態コード
悪性上皮性腫瘍	<i>Malignant epithelial tumours</i>	
胃腺癌	Gastric adenocarcinoma	8140/3
管状腺癌	Tubular adenocarcinoma	8211/3
壁細胞癌	Parietal cell carcinoma	8214/3
混合型腺癌	Adenocarcinoma with mixed subtypes	8255/3
乳頭状腺癌	Papillary adenocarcinoma NOS	8260/3
微小乳頭状腺癌	Micropapillary carcinoma NOS	8265/3
粘表皮癌	Mucoepidermoid carcinoma	8430/3
粘液性腺癌	Mucinous adenocarcinoma	8480/3
印環細胞癌	Signet-ring cell carcinoma	8490/3
低粘着性癌	Poorly cohesive carcinoma	8490/3
リンパ球浸潤を伴う髄様癌	Medullary ca. w/ lymphoid stroma	8512/3
肝様腺癌	Hepatoid adenocarcinoma	8576/3
パネート細胞癌	Paneth cell carcinoma	?
胃扁平上皮癌	Gastric squamous cell carcinoma	8070/3
胃腺扁平上皮癌	Gastric adenosquamous carcinoma	8560/3
胃未分化癌	Gastric undifferentiated carcinoma	8020/3
ラブドイド形質を伴う大細胞癌	Large cell ca. w/ rhabdoid phenotype	8014/3
多形性癌	Pleomorphic carcinoma	8022/3
肉腫様癌	Sarcomatoid carcinoma	8033/3
破骨細胞様巨細胞を伴う癌	Ca. w/ osteoclast-like giant cells	8035/3
ガストロブラストーマ(胃芽細胞腫)	Gastroblastoma	8976/3

食道胃接合部癌（食道癌取扱い規約第12版）

●西の定義

- 病理組織にかかわらず、食道胃接合部の上下2cm以内に癌腫の中心

●Siewertの分類

- 食道胃接合部の食道側1cm、胃側2cmに癌の中心がある**腺癌**を噴門部癌とする

組織型は胃癌分類に従う

取扱い規約第12版

腺癌は胃癌の病期分類

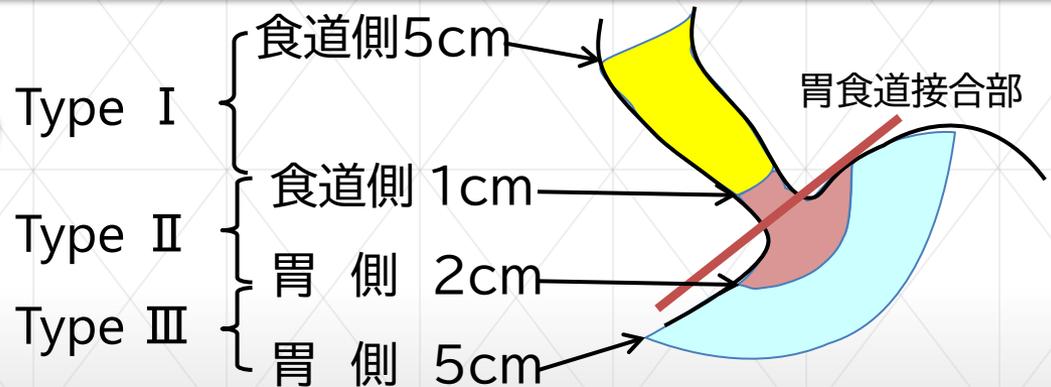
扁平上皮癌・その他は食道癌の病期分類

「EGJの前後2cmに腫瘍の中心があるもの」を食道胃接合部癌。(EGJ浸潤の有無は問わない)

UICC 第8版

EGJの前後2cmの範囲に腫瘍の中心があり、EGJに浸潤があるものは、**食道癌(腺癌)の分類を適用**

日本では、適用しない



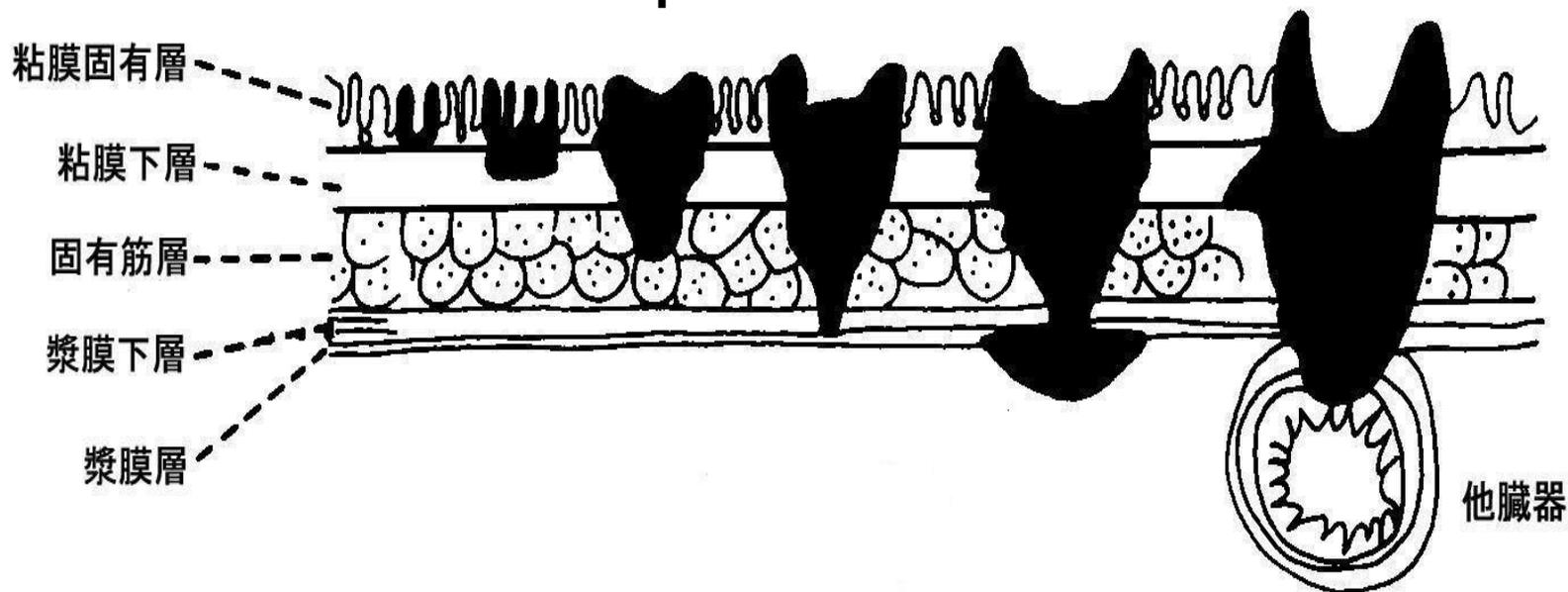
T分類(UICC第8版)

《胃》

- TX** 原発腫瘍の評価が不可能
- T0** 原発腫瘍を認めない
- Tis** 上皮内癌:粘膜固有層に浸潤していないもの
(上皮内癌、高度異形成)
- T1** 粘膜固有層、粘膜筋板または粘膜下層に浸潤
- T1a** 粘膜固有層または粘膜筋板に浸潤する腫瘍 (M)
- T1b** 粘膜下層に浸潤する腫瘍 (SM)
- T2** 固有筋層に浸潤する腫瘍 (MP)
- T3** 漿膜下層に浸潤する腫瘍 (SS)
- T4** 漿膜に穿孔、または隣接構造に浸潤する腫瘍
- T4a** 漿膜を穿孔する腫瘍 (SI)
- T4b** 隣接構造に浸潤する腫瘍 (SE)

T分類と胃癌の壁深達度

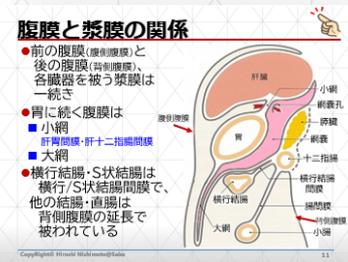
壁深達度	UICC T分類 【第8版】
m	T1a
sm	T1b
mp	T2
ss	T3
se	T4a
si	T4b



胃癌の進展(直接浸潤)

● 胃の外側へ浸潤

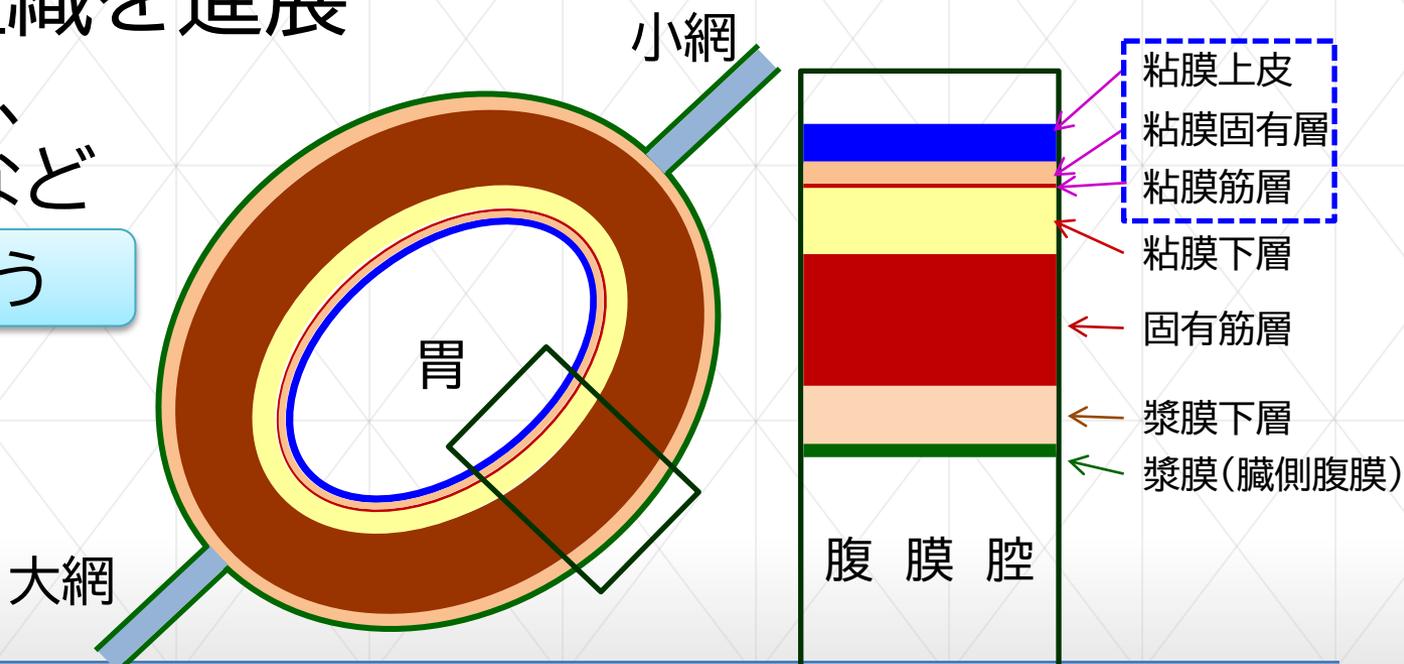
粘膜**上皮** → 粘膜固有層 → 粘膜筋板
→ 粘膜下層 → 固有**筋層**(斜層・輪走・縦走)
→ 漿膜下層 → **漿膜**(臓側腹膜)



● 漿膜下組織を進展

小網、大網、
胃肝間膜など

T3と扱う



N分類（UICC第8版）

《胃》

NX 領域リンパ節転移の評価が不可能

N0 領域リンパ節転移なし

N1 1-2個の領域リンパ節転移

N2 3-6個の領域リンパ節転移

N3 7個以上の領域リンパ節転移

N3a 7-15個の領域リンパ節転移

N3b 16個以上の領域リンパ節転移

※ 取扱い規約第**15**版での**N**分類と、必ずしも一致するとは限らない。

亜部位と領域リンパ節一覧(UICC)

亜部位	UICC TNM分類での 領域リンパ節名	取扱い規約第15版での リンパ節番号	取扱い規約第15版での リンパ節名
胃食道接合部癌 (C16.0)	右噴門	#1	右噴門
	左噴門	#2	左噴門
	左胃動脈		左胃動脈幹
	腹腔動脈		腹腔動脈周囲
	横隔膜下		横隔膜下
	横隔膜下 食道裂孔部	#110	食道裂孔部
胃食道接合部癌以外 (C16.1~C16.9)	横隔膜下 下部傍食道	#111	下部傍食道
	横隔膜上		横隔膜上
	右噴門	#1	右噴門
	左噴門	#2	左噴門
	小彎	#3	小彎
	大彎	#4	大彎
	幽門上	#5	幽門上
	幽門下	#6	幽門下
	左胃動脈	#7	左胃動脈幹
	総肝動脈	#8	総肝動脈
	腹腔動脈	#9	腹腔動脈周囲
	脾門	#10	脾門
	脾動脈幹	#11	脾動脈幹
肝十二指腸靱帯	#12	肝十二指腸間膜内	
幽門下(に連続)	#14V	上腸間膜静脈に沿う	

Copyright © Hiroshi Nishimura @ Saku
 *領域リンパ節以外(表にないリンパ節)への転移は、「遠隔転移あり(M1)」に分類する。

亜部位と領域リンパ節一覧(UICC)

亜部位	UICC TNM分類での 領域リンパ節名	取扱い規約第15版での リンパ節番号	取扱い規約第15版での リンパ節名
	右噴門	#1	右噴門
	左噴門	#2	左噴門
	小彎	#3	小彎
	大彎	#4	大彎
	幽門上	#5	幽門上
	幽門下	#6	幽門下
	左胃動脈	#7	左胃動脈幹
	総肝動脈	#8	総肝動脈
	腹腔動脈	#9	腹腔動脈周囲
	脾門	#10	脾門
	脾動脈幹	#11	脾動脈幹
	肝十二指腸靱帯	#12	肝十二指腸間膜内
	幽門下(に連続)	#14V	上腸間膜静脈に沿う

※領域リンパ節以外(表にないリンパ節)への転移は、「遠隔転移あり(M1)」に分類する。

M分類 (UICC第8版)

《胃》

MX 遠隔転移の評価が不可能

M0 遠隔転移なし

M1 遠隔転移あり

■ 腹膜播種(悪性腹水、癌性腹膜炎)、
卵巣転移、所属外のリンパ節転移、
肝転移、肺転移、他臓器転移など

■ 洗淨細胞診陽性は、腹膜転移と同等に扱う

cステージ(UICC 第8版) 《胃》

【臨床病期】

臨床分類		N0	N1	N2	N3	
					N3a	N3b
Tis		0	院内がん登録では 使わない			
T1	T1a	I				
	T1b		II A	II A	II A	
T2		I	II A	II A	II A	
T3		II B	III	III	III	
T4	T4a	II B	III	III	III	
	T4b	IVA	IVA	IVA	IVA	
M1		IVB	IVB	IVB	IVB	

pステージ(UICC 第8版) 《胃》

【病理学的病期】

病理学的分類		N0	N1	N2	N3	
					N3a	N3b
Tis		0	院内がん登録では 使わない			
T1	T1a	I A			I B	II A
	T1b					
T2		I B	II A	II B	III A	III B
T3		II A	II B	III A	III B	III C
T4	T4a	II B	III A	III A	III B	III C
	T4b	III A	III B	III B	III C	III C
M1		IV	IV	IV	IV	IV

進展度(UICC第8版) 《胃》

UICC TNM分類 【第8版】		N0	N1	N2	N3	
					N3a	N3b
T1	T1a	1:限局	2:領域 リンパ節転移	2:領域 リンパ節転移	2:領域 リンパ節転移	
	T1b					
T2		1:限局	2:領域 リンパ節転移	2:領域 リンパ節転移	2:領域 リンパ節転移	
T3		1:限局	2:領域 リンパ節転移	2:領域 リンパ節転移	2:領域 リンパ節転移	
T4	T4a	3:隣接 臓器浸潤	3:隣接 臓器浸潤	3:隣接 臓器浸潤	3:隣接 臓器浸潤	
	T4b					
M1		4:遠隔転移	4:遠隔転移	4:遠隔転移	4:遠隔転移	

胃癌取扱い規約 第15版

- 臨床分類 (clinical classification)
身体所見、X線・内視鏡診断、画像診断
腹腔鏡検査、手術所見 (開腹・腹腔鏡下)
生検・細胞診、生化学的・生物的検査
その他 (遺伝子検査など)
- 病理分類 (pathological classification)
内視鏡切除および手術で得られた材料の病理診断、
腹腔洗浄細胞診

T分類(取扱い規約第15版) 《胃》

- TX** 癌の浸潤の深さが不明なもの
- T0** 癌がない
- T1** 癌の局在が粘膜または粘膜下組織にとどまるもの
- T1a** 癌が粘膜にとどまるもの(**M**)
- T1b** 癌の浸潤が粘膜下組織にとどまるもの(**SM**)
- T2** 癌の浸潤が粘膜下組織を越えているが、
固有筋層にとどまるもの(**MP**)
- T3** 癌の浸潤が固有筋層を越えているが、
漿膜下組織にとどまるもの(**SS**)
- T4** 癌の浸潤が漿膜表面に接しているかまたは露出、
あるいは他臓器に及ぶもの
- T4a** 癌の浸潤が漿膜表面に接しているか、
またはこれを破って腹腔に露出しているもの(**SE**)
- T4b** 癌の浸潤が直接他臓器まで及ぶもの(**SI**)

他臓器とは、

肝臓、膵臓、横行結腸、脾臓、横隔膜、腹壁、副腎、腎臓、小腸、後腹膜腔をさす。

T分類(取扱い規約第15版) 《胃》

- **UICC**では、高度異形成と上皮内癌が**Tis**と規定されているが、取扱い規約では、**Tis**は用いず、**T1a**とする。
- 漿膜浸潤が、大網・小網に浸潤しても、漿膜に露出しないときは、**T3**とする。
- 癌病巣が、主病巣のある領域内の脈管内にみられるときは脈管浸潤を含めて、壁深達度を評価する。
- 横行結腸間膜への浸潤は、間膜内の血管または間膜後面に浸潤した場合に**T4b**とする。

N分類(取扱い規約第15版) 《胃》

- 領域リンパ節は、2023年～ 院内がん登録的にリンパ節の扱い:変更予定
食道浸潤、十二指腸浸潤の有無で範囲が変わる。

- NX** 領域リンパ節転移の有無が不明である。
- N0** 領域リンパ節に転移を認めない。
- N1** 領域リンパ節に1～2個の転移を認める
- N2** 領域リンパ節に3～6個の転移を認める
- N3** 領域リンパ節に7個以上の転移を認める
- N3a** 7～15個の転移を認める
- N3b** 16個以上の転移を認める

胃固有の領域リンパ節は、#1～#12、#14v

亜部位と領域リンパ節(取扱い規約第15版)《胃》

亜部位	UICC TNM分類での 領域リンパ節名	取扱い規約での リンパ節番号	取扱い規約第15版での リンパ節名	
胃食道接合部癌 以外 (食道浸潤のない) (C16.1~C16.9)	右噴門	#1	右噴門	
	左噴門	#2	左噴門	
	小彎	#3	小彎	
	大彎	#4	大彎	
	幽門上	#5	幽門上	
	幽門下	#6	幽門下	
	食道浸潤のない 食道胃接合部癌 (C16.0)	左胃動脈	#7	左胃動脈幹
		総肝動脈	#8	総肝動脈幹
		腹腔動脈	#9	腹腔動脈周囲
		脾門	#10	脾門
		脾動脈幹	#11	脾動脈幹
		肝十二指腸靱帯	#12	肝十二指腸間膜内
		幽門下(に連続)	#14v	上腸間膜静脈に沿う
食道浸潤のある癌	上記の胃の領域リンパ節(#1~#12, #14v)に加えて、下記のリンパ節			
	横隔膜下	#19	横隔下	
	横隔膜上下に含まれる	#20	食道裂孔部	
	下部縦隔傍食道	#110	胸部下部傍食道	
	横隔膜上	#111	横隔上	
十二指腸浸潤のある癌	上記の胃の領域リンパ節(#1~#12, #14v)に加えて、下記のリンパ節			
	臍頭後部	#13	臍頭後部	

※領域リンパ節以外(表にないリンパ節)への転移は、「遠隔転移あり(M1)」に分類する。

その他の転移(取扱い規約第15版)《胃》

M分類

- MX** 領域リンパ節以外の転移の有無が不明
- M0** 領域リンパ節以外の転移を認めない
- M1** 領域リンパ節以外の転移を認める

取扱い規約での追加的記載

- 腹膜転移(**P1**)
- 腹腔洗浄細胞診(**CY1**)
- 肝転移(**H1**)
 - いずれも**M分類**は「**M1**」となる

cステージ(取扱い規約 第15版)《胃》

取扱い規約 【第15版】		N0	N1	N2	N3	
					N3a	N3b
T1	T1a(M)	c I	c II A	c II A	c II A	
	T1b(SM)					
T2(MP)		c I	c II A	c II A	c II A	
T3(SS)		c II B	c III	c III	c III	
T4	T4a(SE)	c II B	c III	c III	c III	
	T4b(SI)	c IVA	c IVA	c IVA	c IVA	
M1		c IV B	c IV B	c IV B	c IV B	

pステージ(取扱い規約 第15版)《胃》

取扱い規約 【第15版】		N0	N1	N2	N3	
					N3a	N3b
T1	T1a(M)	p I A	p I B	p II A	p II B	p III B
	T1b(SM)					
T2(MP)		p I B	p II A	p II B	p III A	p III B
T3(SS)		p II A	p II B	p III A	p III B	p III C
T4	T4a(SE)	p II B	p III A	p III A	p III B	p III C
	T4b(SI)	p III A	p III B	p III B	p III C	p III C
M1		p IV				